

／サクラサク／

入試分析

2023秋 地理・世界史・日本史

2023年度に行われた共通テスト・国公立大学入試・私立大学入試について、学校法人河合塾の先生方に分析していただきました。日頃のご指導にお役立ていただけましたら幸いです。

★★ 目次 ★★

2023年度 大学入学共通テストの出題傾向と今後の入試動向	学校法人 河合塾 教育企画開発部 地歴・公民科 …… p. 2-3
【地理】 2023年度 入試の出題傾向	河合塾講師 佐藤裕治 …… p. 4-11
【世界史】 2023年度 大学入学共通テスト世界史Bの分析	河合塾講師 井上徳子 …… p. 12-13
2023年度 国公立大学入試	河合塾講師 山内秀朗 …… p. 14-15
2023年度 私立大学入試	河合塾講師 坂本新一 …… p. 16-17
【日本史】 2023年度 大学入学共通テスト日本史Bの分析	河合塾講師 中垣秀作 …… p. 18-19
2023年度 国公立大学入試・私立大学入試の分析	河合塾講師 平野岳美 …… p. 20-23

本誌は学校法人河合塾様にご協力いただきました。

2023年度 大学入学共通テスト の出題傾向と今後の入試動向

学校法人 河合塾 教育企画開発部 地歴・公民科

1 はじめに

2023年度大学入学共通テスト（以下、共通テスト）は、大学入試センター試験の後継として3年目の実施となった。科目別の平均点（本試験）は、地理B 60.46点（昨年度 58.99点）、世界史B 58.43点（昨年度 65.83点）、日本史B 59.75点（昨年度 52.81点）であった（表1）。

表1 地歴・公民の共通テスト（本試験）平均点

	2022年度		2023年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
地理B	58.99	16.23	60.46	14.32
世界史B	65.83	21.16	58.43	20.30
日本史B	52.81	17.47	59.75	17.14
倫理、政治・経済	69.73	15.25	60.59	14.07

2 2023年度共通テストの出題傾向

地理Bは、分量・難易度ともに昨年なみであった。ほぼ全分野からまんべんなく出題されている。昨年同様、単純な文の正誤判定問題はほとんどなく、基本的な知識をふまえた、統計表・統計地図・グラフなどの複数の資料を組み合わせた読み取り形式の問題で構成されており、短時間に多くの情報を読み取り、判断する処理能力が求められている。

世界史Bは、すべての大問で資料（史料文・図版・家系図・表・グラフ）の読み取り問題があり、会話文を利用した問題が昨年より倍増、ページ数も4ページ増加し、難化した。資料や会話文など複数の材料から必要な情報を読み取り、総合的に判断する問題が多く、注意深く解答することが必要である。

日本史Bは、資料（史料・統計など）の読解問題が増加、歴史事象を多面的・多角的に考察させる問題が多く出題されたが、近現代部分においては比較的取り組みやすく、正誤問題も総じて誤りが明確な問題が多かったため、全体としては易化した。

3 今後の共通テストの動向

◆現行課程における共通テスト

地理Bは、共通テストに移行後の3年間で傾向に大きな変化はみられず、同様の傾向が続くと考えられる。問われ

る内容はセンター試験から変わっていないが、共通テストでは各設問に図表が用いられるようになっており、基礎知識に加え問題文の読解や図表を読み取る力が求められている。

世界史Bは、2021・2022年度では図表やグラフ・地図などを利用した問題は比較的少なかったが、2023年度はそれらを活用した問題が増加し、今後も継続すると予想される。教科書本文の文字情報だけでなく、図版やコラムに目を通してよくとよいだろう。

日本史Bは、史料・図版・略系図・統計表など、多様な資料を利用しての出題は継続されるだろう。2023年度本試験第5問 問4では、高校生3人の発言の可否を判断させる問題が出題された。こうした場面設定の読解が必要となる問題は引き続き出題されると思われる。

◆新課程における共通テスト

2022年11月に公表された令和7年度大学入学共通テストの試作問題では、地歴公民6科目の配点と問題構成が示された（表2）。『地理総合、歴史総合、公共』は、「地理総合」「歴史総合」「公共」（各50点）から2つを選択して解答する。『地理総合、歴史総合、公共』の問題の一部は他科目と共通となっており、『地理総合、歴史総合、公共』と『地理総合、地理探究』では、「地理総合」の25点分が共通問題であった。『歴史総合、世界史探究』『歴史総合、日本史探究』についても「歴史総合」の25点分が『地理総合、歴史総合、公共』との共通問題であった。

試作問題の出題傾向は現行課程の共通テストをふまえたものとなっており、複数の初見の資料を読み解いて正答に

表2-1 試作問題『地理総合、地理探究』問題構成

大問番号	分野	配点	設問数	テーマ
第1問※1	地理総合	12	4	難民問題とその解決策
第2問※2	地理総合	13	4	自然環境と防災
第3問	地理探究	17	5	気候システム、生態系と人間社会
第4問	地理探究	17	5	国や地域の結びつき
第5問	地理探究	17	5	アフリカに関する地誌的考察
第6問	地理探究	24	7	地域調査

※1『地理総合、歴史総合、公共』の中の「地理総合」第1問と共通。

※2『地理総合、歴史総合、公共』の中の「地理総合」第2問と共通。

※設問数は配点単位でカウント（以降の出題科目も同様）。

表2-2 試作問題『歴史総合、世界史探究』問題構成

大問番号	分野	配点	設問数	テーマ
第1問*	歴史総合	25	9	人々の接触と他者認識についての授業
第2問	世界史探究	13	4	世界史上の都市についての授業
第3問	世界史探究	15	5	人の移動と移動ルートの選択についての授業
第4問	世界史探究	25	8	国家と宗教の関係に関する資料
第5問	世界史探究	22	7	ある主題を考察する授業(人々の活動の目的)

※『地理総合、歴史総合、公共』の中の「歴史総合」第2問と共通

表2-3 試作問題『歴史総合、日本史探究』問題構成

大問番号	分野	配点	設問数	テーマ
第1問*	歴史総合	25	9	人やモノの移動とその影響
第2問	日本史探究	15	5	総合 学びの歴史
第3問	日本史探究	15	5	古代 藤原京の時代の特徴
第4問	日本史探究	15	5	中世 中世社会における対立・紛争の解決方法
第5問	日本史探究	15	5	近世 江戸時代の政治・社会(大坂)
第6問	日本史探究	15	5	近現代 関東地方のある市の近現代史

※『地理総合、歴史総合、公共』の中の「歴史総合」第1問と共通

いたる情報処理能力や、授業場面などの問題設定の読解力も試されている。地理については、課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する問題が多く、基本的知識を組み合わせながら地理的概念を見出し、それを手掛かりに諸資料を分析したり、問題解決に向けて考察したりする力が必要となる。歴史では、世界史・日本史ともに時間認識・空間認識を意識した問題が多く、単純な知識ではなく、時代の特徴や歴史事象の因果関係を把握しているかどうかが問われている。

受験に際しては、「地理歴史」「公民」から2科目を選択する場合、同時選択が不可能な組み合わせがあるので注意したい。例えば『地理総合、歴史総合、公共』で「地理総合」と「歴史総合」を解答した場合、もう1科目は『公共、倫理』と『公共、政治・経済』のいずれかのみが選択可能である。なお、共通テスト『地理総合、歴史総合、公共』での出願については、国公立大難関大や医学科を中心に、利用を認めていない大学(学部)が複数あるため、十分確認をしておきたい(表3)。私立大学の共通テスト方式については、利用可と不可が同じ大学内でも混在しているケースもあり、注意が必要である(表4)。

4 今後の国公立大二次試験・私立大入試の動向

国公立大学や私立大学の大学独自試験の出題範囲については、現行課程では4単位のB科目を出題する大学が圧倒的に多いが、新課程においては、現時点では「総合科目」+「探究科目」5単位分の出題範囲とする大学と、「探究科目」のみ3単位分の出題範囲とする大学に二分されている。公民についても、「公共」を含む大学と含まない大学に分かれている(表5)。

大学独自試験の出題傾向としては、国公立大学の二次試

表3 国公立大 共通テスト「地歴公民」の設定状況※

・『地理総合、歴史総合、公共』は74%の募集区分で利用可能
ただし、難関大、医学科では認めない大学が多い

『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可の大学例

難関10大 (北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)

医学科 (秋田大、福島県立医科大学、群馬大、東京医科歯科大、福井大、岐阜大、三重大、島根大、岡山大、熊本大、鹿児島大 など)

・公民科目(『公共、倫理』『公共、政治・経済』)利用不可の大学はほとんどみられない

現行課程では難関大を中心に、公民の一部科目が選択できない大学があるが、新課程ではほとんどの大学で公民の2科目とも利用できる

例) 東京大の「地歴公民」の選択科目(現行課程 ▶ 新課程)

『地理B』『日本史B』 ▶ 『地理総合、地理探究』『歴史総合、世界史B』
『倫理、政治・経済』『公共、倫理』『公共、政治・経済』

表4 私立大 共通テスト「地歴公民」の設定状況※

・『地理総合、歴史総合、公共』は同じ大学内で利用可と利用不可の学部・学科、方式が混在しているケースがみられる

例) 中央大の「地歴公民」の設定状況

すべて選択可: 文、経済、国際情報

『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可: 法、総合政策、国際経営、商

『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可の大学例

國學院大(法)、上智大、成蹊大(文、経済)、順天堂大(医)、日本大(商)、明治大(共通テスト方式(経営以外))、明治学院大、南山大、京都女子大、同志社大(グローバル地域文化、経済)、立命館大、追手門学院大、関西大、近畿大 など

例) 早稲田大の「地歴公民」の設定状況

『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可: 教育、社会科学(共テ利用)、法、政治経済、スポーツ科学、人間科学

『地理総合、歴史総合、公共』『公共、倫理』は利用不可: 社会科学(共テ併用)

『地理総合、地理探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』のみ利用可: 文、文化構想

『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』のみ利用可: 国際教養

表5 大学独自試験「地歴公民」の出題範囲※

・地理歴史の出題範囲

「総合科目」を含む大学

北海道大、千葉大、東京外国語大、一橋大、名古屋大、大阪大、九州大、学習院大、慶應義塾大(文、法、経済)、駒澤大、上智大、成蹊大(法)、成城大、専修大、中央大(文、総合政策、経済、商、法-5学部共通)、東海大、東京女子大、東洋大、日本大、明治学院大、立教大、愛知大、中京大、南山大、立命館大、関西大、関西学院大 など

「総合科目」を含まない大学

筑波大、東京大、京都大、神戸市外国語大、青山学院大、桜美林大、杏林大、慶應義塾大(商)、順天堂大、成蹊大(文、経営、経済)、中央大(法-学部別選抜)、武蔵大、早稲田大*1、名城大、京都産業大、同志社大、龍谷大、近畿大、神戸学院大、西南学院大*1、福岡大*1 など

*1 地理は総合科目を含む

・公民の出題範囲

「公共」を含む大学

高崎経済大、東京学芸大*2、愛知教育大、獨協大、学習院大、駒澤大、成城大、専修大、中央大(文、総合政策、経済、商、法-5学部共通)、東海大、日本大、法政大、明治学院大、立教大、愛知大、立命館大 など *2 「公共」を単独で出題

「公共」を含まない大学

筑波大、神戸市外国語大、青山学院大、桜美林大、杏林大、成蹊大、中央大(法-学部別選抜)、東洋大、武蔵大、早稲田大、中京大、名城大、京都産業大、同志社大、龍谷大、関西大、近畿大、西南学院大 など

※河合塾調べ、2023年5月末現在。国公立大は対象大学が公表した募集区分単位のデータの前期日程で集計、私立大も含め一般選抜が対象。最新の入試科目は各大学公表の入試要項をご確認ください。

験では、ほとんどの大学で論述形式が採用されており、これまでも思考力・判断力を要する出題がなされているため、現在の出題傾向と大きく変わらない可能性が高い。一方、知識を中心に問う傾向の強い私立大入試では、思考力・判断力を問うために、資料を分析・考察しながら、課題解決の力をはかったり、因果関係や時代概観を把握しているかを問うたりする問題が増加する可能性がある。

2023年度 入試の 出題傾向

地理

学校法人 河合塾 地理講師 佐藤 裕治

1 はじめに

大学入学共通テストは3年目に入り、複数の資料から思考力・判断力を試す形式、難易度ともほぼ定着したといえる。一方、現行課程ではあと1回を残すのみで、2025年度入試では新しい科目である「地理総合」、「地理探究」で出題されることになり、受験生は地理を選択する場合、『地理総合、地理探究』か『地理総合、歴史総合、公共』のいずれかを選択することになる。国公立大学二次試験や私立大学個別入試における入試科目を『地理総合、地理探究』とするかは大学によって対応は異なるが、「地理総合」の学習項目である、防災や持続可能な地域づくりに関する設問は私立大学でも、意欲的に先取りする形で出題される例がみられた。

2 共通テストの出題傾向

◆出題分野と全体の難易度

地理B（本試）は大問5題で、昨年度と同様に「自然環境と自然災害」、「資源と産業」、「村落・都市と人口」、「地誌」、「地域調査」の各分野からそれぞれ1題で出題された（表1）。全体のマーク数、問題冊子のページ数、図表、写真などの資料の数はほぼ変わらない（表2）。センター試験に比べると、複数の資料を組み合わせ、その判読を求める形式が定着しており、知識だけで即答できる問題はないため、判読に手間取ると時間がたりなくなる傾向は続いている。

今年度は大学入試センターから設問別の正答率が、グラフ形式で初めて公表された。ここではレベル別正答率などの分析のために河合塾の再現答案による正答率（表3）を示したが、公表されたものと大きな違いはみられない。正答率が30%を下回る極端な難問は昨年度の1問から4問に増え、正答率90%以上の問題は1問から4問に増えたが、高得点が難しいという状況は、従来と変わらない。上位層の識別という点ではバランスの取れ

た難易度分布であるが、依然として高得点者の多い世界史などと比較すると科目間の難易度調整が求められる。

大問別でみると得点率のバラツキが少なく、極端な難問がなかった第5問の「地域調査」の得点率が最も高く、

表1 地理B（センター試験本試・共通テスト本試）
出題分野別一覧

	2019	2020	2021		2022	2023
			第1日程	第2日程		
地図と地理的技能						
地理情報と地図					○	
地図と地域調査	◎	◎	◎	◎	◎	◎
自然環境	◎	◎	◎	◎	◎	◎
地形	○	○	○	○	○	○
気候	○	○	○	○	○	○
植生・土壌	○	○	○	○	○	
自然災害	○	○	○	○	○	○
環境問題	○		○	○	○	○
資源と産業	◎	◎	◎	◎	◎	◎
農業	○	○	○	○	○	○
林業・水産業		○	○		○	○
エネルギー・鉱産資源		○			○	
資源・エネルギー問題					○	
工業		○	○	○	○	
第3次産業	○	○	○	○		
交通・通信		○	○	○	○	○
貿易・直接投資・援助	○	○	○	○	○	○
人口、村落・都市		◎	◎	◎	◎	◎
人口		○	○	○	○	○
村落・都市	◎	○	○	○	○	○
都市・居住問題	○	○	○	○	○	○
生活と文化、民族・宗教	◎					
文化・衣食住	○	○				
言語・宗教	○	○				
民族・国家	○		○			
地誌	◎	◎	◎	◎	◎	◎
比較地誌	●	●			○	○
アジア	○	●		●		●
アフリカ	○					
ヨーロッパ	○					
C I S	●					
北アメリカ			●			
南アメリカ		●			●	
オセアニア		●			○	
日本						
複合地域	●					
平均点	62.0	66.4	60.1	62.7	59.0	60.5

◎大問のテーマ ●地誌の大問で取りあげられた地域 ○小問のテーマ・地域

表2 共通テストの解答形式と素材形式

	地理 A					地理 B						
	センター試験	共通テスト				センター試験	共通テスト					
		2020 年	2021 年		2022 年		2023 年	2020 年	2021 年		2022 年	2023 年
			第1日程	第2日程					第1日程	第2日程		
正誤文判定*1	11	9	13	8	8	7	7	8	5	5		
組み合わせ解答	12	18	16	20	18	11	20	18	19	19		
図 (内地形図*2)	22 (2)	24 (4)	13 (3)	29 (2)	26 (2)	28 (1)	27 (2)	29 (2)	31 (1)	32 (1)		
表	3	4	6	4	4	8	5	3	6	4		
写真*3	3 (9)	8 (13)	5 (13)	5 (9)	8 (18)	1 (1)	3 (7)	5 (11)	2 (4)	2 (3)		
ページ数*4	28	32	32	32	32	34	34	34	34	34		
マーク数	34	30	30	30	31	35	32	30	31	31		
平均点	54.51	59.98	61.75	51.62	55.19	66.35	60.06	62.72	58.99	60.46		

図・表・写真の数は、問題中のそれぞれの番号の合計に、資料として示されたものを加えた。

*1 組み合わせ形式の正誤文判定を含む。*2 地勢図、地理院地図を含む。*3 かっこ内は写真の枚数を示す。*4 空白のページは含まない。

表3 再現答案による設問別正答率（河合塾調べ）
（2023年度大学入学共通テスト地理B 本試）

問題番号	解答番号	正答率	問題番号	解答番号	正答率
第1問	1	72.7	第4問	20	29.9
	2	58.7		21	73.7
	3	74.6		22	90.6
	4	91.0		23	73.4
	5	81.8		24	75.1
	6	26.5		25	45.3
	7	47.0		小計	65.6
	小計	62.9		26	63.0
第2問	8	86.9	第5問	27	91.2
	9	26.0		28	57.1
	10	68.4		29	58.8
	11	41.7		30	65.9
	12	76.9		31	85.1
	13	54.9		小計	69.0
	小計	58.7		合計	63.8
第3問	14	44.3	注) サンプル数は2695人 (現役生2151人、高卒生544人)。 サンプルの平均点は63.8で、 <u>地理B受験生全体の平均点(60.5)</u> より3.3点高い。 大問ごとの小計、合計は得点率を示す。		
	15	88.7			
	16	52.2			
	17	92.1			
	18	56.2			
	19	28.9			
	小計	61.6			

時間をかけて資料をしっかりと読めば正解できる問題が多かった。一方、最も低かったのが第2問の「資源と産業」で、国別の農業に関する統計を扱った問2・問4の正答率が低いというに、きわめてやさしい設問がなかったことも影響している。第1問の「自然環境と自然災害」では、問3の月別・時間別の気温分布の等値線図や、問5の地震の震源の東西方向の位置と深度の分布図、問6の降水量と河川の水位の時間変化の模式図などが、国公立大二次では出題されたことのある図だが、初めて見る受験生にとっては読み取りに手間取り、差がつく問題であった。第3問の「村落・都市と人口」は、高校生が鹿児島県を訪ねたことをきっかけに日本の人口や都市をめぐる諸問題を考えたという地域調査のような場面設定で出題され

たが、設問ごとの難易度に違いがみられ、とくに問6のイギリスにおける外国人労働者の出身国の推移を示した表で、アイルランド、インド、ポーランドの判定は難しかったようだ。第4問の「地誌」はインドと中国に関するもので、地理的に連続する地域としての設問と、両国の違いに着目した比較地誌的な設問で構成されている。問1の濃淡で高度を示した地図中の4地域の耕地、草地・裸地、森林の割合の判定は、高度の違いだけで判断するのは難しく、地誌的な知識が必要となるため、正答率は低かった。受験生の全体的傾向として、さまざまな地図やグラフを判読するスキルはそれなりに身につけてきたと思われるが、統計から個別の国や地域を判定する問題では、地誌的知識の不足から正答率が低くなりがちである。

◆再現答案の正答率からみた特徴

大学入試センターの公表値（以下、公表値）で正答率が最も低かった設問が第1問 問5（例題1）で、正答率は20%を若干超える程度であった。河合塾のセンターリサーチによる正答率（以下、河合塾データ）では26.5%で、正答率が2番目に低かった。河合塾データでレベル別の正答率をみると（表4）、上位層38.3%、中位層22.3%、下位層11.2%とレベルによる差がみられた。中位層、下位層で最も選択率の高かったのが②で、Pに該当するのはタ、Rはチと判断したことがわかる。これは、海溝に沿った狭まるプレート境界で発生する深度の大きな震源を見落としたと思われる。プレート境界と地震との関係がきちんと理解できていれば正解できたはずであり、難問ではあるが学力の識別力のある良問といえる。

一方、河合塾データで最も正答率が低く、公表値でも2番目に低かったのが第2問 問2（例題2）である。さほどの難問とは思えないが、レベルにかかわらず正答率が低く、東アジアに該当するものとして灌漑率の低い

②を選んでいる（表5）。多くの受験生にとって水田と灌漑が結びついていないのかもしれない。

一方、レベル別で正答率が大きく異なり（表6）、学力の識別に有効であったのが、都市化の前後の河川の水位の変化に関する第1問 問6（例題3）である。都市化による森林や田畑の減少と舗装の増加で、豪雨の後に河川の水位が急激に高くなり、排出できない雨水が市街地に浸水する内水氾濫が起りやすくなったことが問われ、資料の判読と思考力が試され上位層の中でも差がつく識別力のある問題であった。ハイドログラフを用いた出題は東京大学でも1999年度、2010年度に出題されたことがあるが、このような土地利用の変更に伴い災害を受けやすくなる事例を資料の判読と合わせた問題は、新課程の「地理総合」でも今後出題される可能性が高い。帝国書院教科書『高等学校 新地理総合』では「都市で

《正答率の低い問題》

表4 共通テスト地理B 第1問 問5 6 例題1のマーク率

	①	②	③	④	⑤	⑥
上位層	8.1	17.1	5.5	10.5	38.3	20.2
中位層	12.7	24.1	7.6	14.1	22.3	19.2
下位層	15.8	26.7	11.6	16.4	11.2	18.0
全体	11.5	21.8	7.6	13.1	26.5	19.4

※偏差値：上位層 55.0 以上、中位層 45.0 ～ 54.9、下位層 44.9 以下。
※赤字が正解。

表5 共通テスト地理B 第2問 問2 9 例題2のマーク率

	①	②	③	④
上位層	23.4	47.3	27.2	1.9
中位層	22.2	49.2	24.5	3.8
下位層	18.8	47.3	26.9	6.8
全体	22.0	48.1	26.0	3.7

《差のつく問題》

表6 共通テスト地理B 第1問 問6 7 例題3のレベル別正答率

	レベル	偏差値	正答率
上位層	S	65.0 ～	78.3
	A	60.0 ～ 64.9	60.6
	B	55.0 ～ 59.9	53.7
中位層	C	50.0 ～ 54.9	46.6
	D	45.0 ～ 49.9	38.2
下位層	E	40.0 ～ 44.9	31.7
	F	～ 39.9	26.6

表7 共通テスト地理B 第3問 問3 16 のレベル別正答率

	レベル	偏差値	正答率
上位層	S	65.0 ～	97.2
	A	60.0 ～ 64.9	85.1
	B	55.0 ～ 59.9	68.3
中位層	C	50.0 ～ 54.9	50.2
	D	45.0 ～ 49.9	33.4
下位層	E	40.0 ～ 44.9	27.5
	F	～ 39.9	8.9

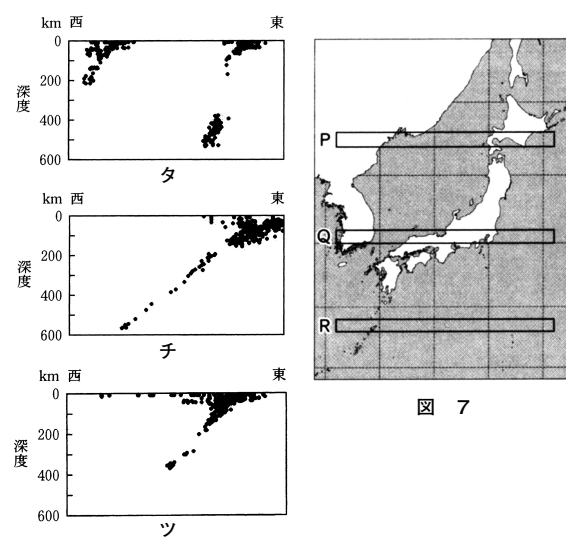
洪水が起こるしくみとその対策」が、図解で示されている（p.208 3）。

さらにレベル別で正答率の差が大きかったのが、第3問 問3である（表7）。地理院地図で鉄道、道路、市役所などのみ示した地方都市（都市名は伏せているが、薩摩川内市である）の3地点の景観の変化に関する会話か

■例題1 共通テスト地理B 第1問 問5 6

問5 次の図6中のタ～ツは、図7中のP～Rのいずれかの範囲において発生した地震*の震源について、東西方向の位置と深度を示したものである。タ～ツとP～Rとの正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 6

*2012～2020年に発生したマグニチュード3以上の地震。



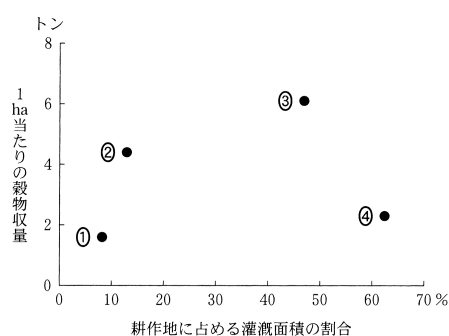
USGSの資料により作成。

図6

	①	②	③	④	⑤	⑥
タ	P	P	Q	Q	R	R
チ	Q	R	P	R	P	Q
ツ	R	Q	R	P	Q	P

■例題2 共通テスト地理B 第2問 問2 9

問2 次の図2は、いくつかの地域における耕作地に占める灌漑面積の割合と、1ha当たりの穀物収量を示したものであり、①～④は、アフリカ、中央・西アジア、東アジア、ヨーロッパのいずれかである。東アジアに該当するものを、図2中の①～④のうちから一つ選べ。 9



統計年次は2017年。AQUASTATなどにより作成。

図2

■例題3 共通テスト地理B 第1問 問6 7

問6 次の図8は、日本の都市内を流れる小規模な河川について、短時間の豪雨の降水量と河川の水位の変化を模式的に示したものであり、凡例XとYは、都市化の前と後のいずれかである。また、後の文章は、図8に関することからについて述べたものである。空欄マに当てはまる語句と、空欄ミに当てはまる文との組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 7

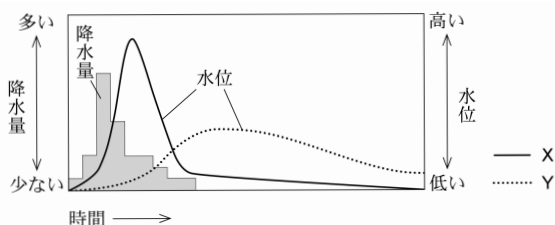


図 8

雨の降り方が同じであっても、都市化の前と後では河川の水位の変化が異なり、都市化によって(マ)のように変化する。これは、(ミ)ことが主な要因である。

(ミ)に当てはまる文

- m 河道が改修され、遊水地や放水路が造られた
n 森林や田畑が減少し、地表面が舗装された

	①	②	③	④
マ	XからY	XからY	YからX	YからX
ミ	m	n	m	n

ら地点を判定するもので、地形図に比べると情報を減らした地理院地図で各地点の特徴(衰退する中心商業地区、新興住宅地、郊外の幹線道路沿い)を判断し、景観の変化を考えるもので、上位層にとってはわかりやすい問題だが、下位層にとっては中心部の位置や各地点の特徴が把握できなかったようだ。学力の識別力があり、地図を使った学習ができていたかを見分ける良問といえる。

◆工夫された組み合わせ解答形式や資料の提示形式

今回の共通テストでは、センター試験では多くみられた文章だけの正誤判定はみられず、資料の判読と組み合わせた形式にすることで、知識に偏重しない工夫がなされている。また、第4問 問2では、作付総面積に占める米と小麦の割合を示す図を4つに分け、各行政区がいずれに当たるかをパターンで塗り分けて示す、共通テストでは初めての表現方法がとられた。一方で、これらの問題は、判読に時間がかかり受験生にとっては負担が大きいうえ、あとで見返すと間違えるはずではなかったのという悔いの残る問題となることも多い。

3 国公立二次・私大の出題傾向

◆地理院地図を活用した問題

「地理総合」では、地理情報システムを活用すること

が求められており、帝国書院教科書『高等学校 新地理総合』p.22～23では地理院地図の利用について詳しく解説しているが、今年度の入試問題でも地理院地図から作成した図や引用した資料に関する出題が多くみられるようになった。これらは自然災害や防災に関連させた形式で出題されることが多く、今年度の共通テストでも地理A(本試)第1問 問4・問5、地理A(追試)第

■例題4 東京大学 第1問 設問A

設問A 地球の地質時代は、地層に残された地球規模の変化の証拠によって区分される。たとえば、今から約6600万年前の白亜紀の終わりは、地球に隕石が衝突したために高濃度のイリジウムが含まれる地層と、恐竜などの生物が大量に絶滅した層準で定義される。

人間活動が、地球に対し地層にも残るような広範なインパクトを与えていることから、現在を「人新世」という新しい地質時代に区分する提案が、最近なされている。人新世のはじまりの時期は、16世紀とする意見、18世紀後半とする意見、1950年代とする意見などがあつた。いずれの時期を人新世の開始とするにしても、全地球的な証拠が地層中に残されることが必要であることに留意して、以下の問いに答えよ。

(1) 人新世の開始時期を16世紀とする意見は、それまで別の地域に分かれて分布していた動物や植物が、この時期に全地球的に広がったことが、湖の堆積物や遺跡の記録から明らかになったことに基づいている。どのような動物や植物が、どのような過程で全地球的に広がったのか。具体的な動物と植物の例を1つずつあげて、2行以内で述べよ。

(2) 人新世の最初の提案は、その開始時期を18世紀後半とするものだった。しかし、この案はその証拠が全地球的に同時期に起こったわけではないことから、候補からはずされている。開始時期を18世紀後半とする意見は、どのような人間活動と証拠に基づくものであつたのか。2行以内で述べよ。

(3) 人新世の開始時期について検討した地質学者のグループは、放射性物質のピークが地層中に認められることから、開始時期を1950年代とする提案をまとめた。1950年代に放射性物質のピークが現れる理由を、1行で述べよ。

(4) 図1-1のA～Cは、人新世の地層に残る可能性のある、人間が作った物質の、積算生産量を示したグラフである。いずれも1950年以降急激に増加していることが分かる。3つは以下のどれか、A～Cのように答えよ。

アルミニウム コンクリート プラスティック

(5) (4)の物質は、いずれも経済活動の加速によって1950年以降生産が急激に増加した。このうち、プラスチックの生産の増加がひきおこした環境問題を2行以内で述べよ。

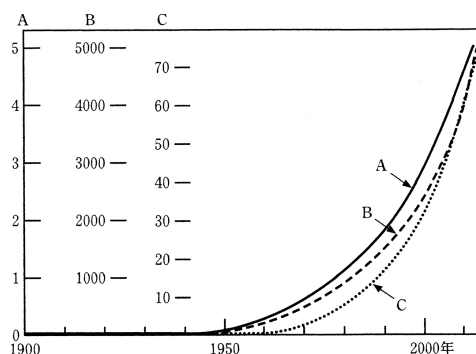


図1-1

人間が作った3つの物質の積算生産量。縦軸の数字の単位は億トン。A、B、Cそれぞれのスケールは異なっている。Watersら(2016)による。

1問 問5などで地理院地図から作成した地形分類図や陰影起伏図をもとに自然災害のリスクや避難経路に関して出題されたが、私立大の入試問題でも、新課程を先取りするような意欲的な問題が少なくなかった（表8）。駒澤大学、明治大学の問題はいずれも、地理院地図に示された自然災害伝承碑と自然災害のリスクに関する問題だが、2022年11月に公表された『地理総合、地理探究』試作問題第2問では、自然災害伝承碑の碑文からどのような災害が発生したかを判断し、それが設置されている場所を地理院地図から選ぶ問題が出題されている。探究型の授業を反映した入試問題として、新課程の「地理総合」分野ではこうした地理院地図を活用した出題形式が多くなると予想される。

◆地理にかかわる新しい考え方を出題

人間活動が地球の地層にも広範な影響を及ぼしているとして提案された「人新世」は、今年7月に国際地質科学連合の人新世作業部会が1950年ごろを境に急拡大した人間活動の痕跡を読み取る模式地にカナダの湖を選んだと発表し話題になった。もちろん教科書にはまだ取りあげられていない人新世に関する東京大学の問題（例題4、表9）は、受験生や高校の地理教育に携わるものに戸惑いを感じさせたかもしれない。しかし、問題で問われた内容は、近現代の世界史の基本的な知識は必要ではあるが、現在の地理の学習で十分に対応できるもので、思考力と「地層中に残された証拠」に留意した表現力が試される良問であった。一方、愛知教育大学（表9）では、大地形の成因にプレートテクトニクスの考えが教科書に

も反映されることで、教科書の記述内容も変化していることに関する出題であった。2022年度の早稲田大学（教育）でも高等学校の教科書の問題点を指摘した論文*から引用した文章に基づく出題がみられた。いずれも教育学部の入試問題であることを考えると、見方・考え方の変化により教育の現場が戸惑いを感じていることを反映したものとも推察できるが、設問の内容としては違和感のないものであった。地理の入試問題は単に知識を問うだけでなく、新しい動きや考え方にも柔軟に対応できる力を試そうとするものも少なくないといえる。

4 論述問題の形式・テーマと対応策

表10は、国公立大学の論述問題について、設問ごとのテーマ、全体の分量、設問ごとの字数を示したもので、大学によってかなり異なるが、大学ごとでみると例年と大きな変化はみられなかった。論述問題の形式は用語の説明などの単純なものもあるが、分布図などの資料をもとに地理的事象の地域的な違いの要因を答えさせたり、経年変化を示す図表を用いて変化の背景を説明させたり、客観式の問題と組み合わせて、その判定理由を説明させるなど思考力と表現力を試す形式が多い。資料を用いたり、解答の文章で使用する語句を指定したりすることで、解答の方向を示して採点しやすくする工夫がなされている。こうした論述問題への対策には、多様なテーマについての的確な資料を示し、コンパクトな解説を添えた『新詳地理資料 COMPLETE』の活用がきわめて有効である。

表8 地理院地図を活用した問題

大学	問題番号	設問内容
立命館大学 (全学統一)	I 〔5〕～〔8〕	基盤地図情報の基本項目を判定する。空中写真の撮影時期の順番を判定する。等高線図（20 m間隔）から断面図や傾斜角を判定する。標準地図に水害ハザードマップ、人口地図、指定避難所の地図を重ねその読み取りの正誤を判定する。
獨協大学 (2/2 実施)	① 問4・問5	地理院地図で作成した鳥瞰図の方向を判定する。地形図と地形分類図から地形の特徴と災害のリスクを読み取る。
東北学院大学 (2/1 実施)	3 問3	地形図から地理院地図で作成した陰影起伏図、傾斜量図、段彩図を判定する。
駒澤大学 (2/6 実施)	問題 I 問4～問13	地理院地図の陰影起伏図に災害の種類（火山災害、津波、高潮、洪水、土砂災害）ごとの自然災害伝承碑の分布を重ね合わせた図から、その判読や災害の種類を判定する。
明治大学 (全学部統一)	〔I〕 問6	岩手県宮古市にある自然災害伝承碑の津波について述べた碑文の一部を読み、それに続く教訓にあたる文を選択する。

表9 地理にかかわる新しい考え方を出題

大学	問題番号	設問内容
東京大学	第1問 設問A	「人新世」という新しい地質時代の区分の提案で開始時期を16世紀、18世紀後半、1950年代とするそれぞれの意見の根拠やその影響などを答える（例題4）。
愛知教育大学	I 問5	教育実習の教材研究のため1980年代の教科書と今の教科書を比較し、地形環境の項目が異なっていることに気づくという場面設定で、大地形の成因に関する考え方が変化した理由と将来も教科書が変化することをふまえ、教員として社会科を教える際に、どのような姿勢で臨みたいかを述べる。

* 岩田修二（2013）：高校地理教科書の「造山帯」を改訂するための提案 E-journal GEO Vol.8 (1)

表10 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その1（2023年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
北海道大学	12	700 字 程度	60 字 30～90	<p>▶ある都市の2つの地区（都心に近いA、都心から離れた場所のB）の年齢別人口（2000年、2020年）グラフから、この都市で起こっている人口の変化を説明。▶地形図読図〔河岸段丘面上の地点が段丘崖下の地点に比べてもっている利点を述べる〕。▶統計情報を表やグラフではなく地図として表現する場合の利点を述べる。▶ブラジルの鉄鉱石の産地を述べた文中の下線部「露天掘り」を簡潔に説明。▶ブラジルの赤色土壌のラトソルに養分が乏しい理由を自然環境に注目して説明。▶南アメリカ大陸の南緯12度付近の東岸と西岸のハイサーグラフから気候の違いが生じる理由を説明。▶フェアトレードとは何か説明（指定語句：賃金、不平等、自立）。▶EUの東方拡大がEU域内にもたらした経済的影響を述べる。▶ソ連の計画経済からロシアの市場経済に転換することによりロシアで生じた社会経済問題を述べる。▶さまざまな国・地域から移民を受け入れてきたアメリカ合衆国を例えた「サラダボウル」の説明。▶2000年代以降アメリカ合衆国を中心に生じたエネルギーに関するシェール革命が何かを説明。▶1994年のNAFTAの成立によりこの地域で生じた経済的变化を説明。</p>
筑波大学 (生物資源学 類、地球学 類)	3	800 字	270 字	<p>▶地形図読図〔地形図と陰影起伏図から、この地域（滋賀県五箇荘駅周辺）の集落と土地利用について、地形との関係に着目して説明〕。▶太平洋の赤道付近のある月の海面水温の平年差を示した図でみられる現象について、この現象が生じているときの海水温と海上風の東西断面を平年との違いがわかるように図に記入し、この現象の特徴を発生要因も含めて説明。▶OECD加盟の6カ国の外国人の流入および流出人数をその国の総人口に占める割合（2000年、2008年、2016年）で示した表から、オーストラリア、韓国、ドイツを判定した上で、それぞれの国の国際人口移動にみられる特色とその要因を説明。</p>
筑波大学 (生物資源学 類、地球学 類以外)	4	1600 字	400 字	<p>▶地形図読図〔新旧の地形図（埼玉県荒川と入間川の合流点付近、1967年、2018年）を読み図し、集落立地、土地利用、およびそれらの変化を地形の特性や人間による地形の改変と結びつけながら説明〕。▶地球上の主な貯水体における貯水量と入れかえ時間、世界全体の水利用に占める割合を示した表を参考に、各貯水体の水資源としての特徴を説明（指定語句：枯渇、費用、偏在）。▶世界の三大宗教にもとづく休日の有無を国・地域別に示した地図から、それぞれの分布や重なりにみられる特色を指摘して、その地域的背景について説明。▶ヨーロッパの5カ国の農業生産に関する統計数値を示した表から、イギリス、スペイン、デンマーク、フランスを判定し、ヨーロッパ全体の農業にみられる地域的特徴を説明（指定語句：気温、丘陵地、降水量、平野、酪農）。</p>
東京大学	17	990 字	60 字 30～90	<p>▶人新世の開始時期を16世紀とする意見はこの時期の動物や植物が全球的に広がったことに基づくが、どのような動物や植物がどのような過程で全球的に広がったか、具体的な動物と植物の例を1つずつあげて述べる。▶人新世の最初の提案は、開始時期を18世紀後半とするものだったが、その証拠が全球的に同時期に起こったわけではないことから候補からははずされた。開始時期を18世紀後半とする意見は、どのような人間活動と証拠に基づくものであったかを述べる。▶1950年代に放射性物質のピークが地層中に認められた理由を述べる。▶地層中に1950年代以降急激に増加したアルミニウム、コンクリート、プラスチックの積算生産量を示したグラフを判定し、プラスチックの生産の増加が引き起こした環境問題を述べる。▶南アジアにおける林野火災の分布図をもとに、地図中の地域（パンジャブ）で林野火災が、5月と11月に極大となる理由を、この地域で行われている人間活動と関連づけて述べる。▶PM2.5などの粒子状大気汚染物質が、ヒマラヤ山脈中腹まで達し、特に6月～9月に顕著になる理由を、林野火災以外の年間を通してみられる汚染物質の発生源と気候条件に関連させて述べる。▶1990年～2020年にかけて全世界の水産物の養殖生産量に著しい増大がみられた背景を、水産物の需要・供給の両面に注目し述べる。▶今日の水産物養殖業が抱えている、持続性におけるさまざまな課題と、解決に向けた取り組みを述べる（指定語句：稚魚、生態系）。▶中国の小麦の単位収量が1980年代前半に急激に増加した理由を述べる。▶ハンガリーの小麦の単位収量が1990年代に大幅に低下した理由を述べる（指定語句：農業補助金削減、肥料）。▶中国で国内価格の下落により1997年から2003年にかけて小麦の生産量が約30%減少するが、その後の17年間で約55%増加した政策的な背景を述べる（指定語句：食料安全保障、肉類消費）。▶地形図読図〔2014年に自然災害が発生した地域の2022年の地理院地図（地名は削除されているが広島市安佐南区）をもとに、山地にみられる土地被覆に関する2種類の地図記号（針葉樹林、荒地）と地形との対応関係を説明。自然災害後に建設された人工構造物（砂防ダム）の目的を、前問の土地被覆（荒地）の成立要因、自然災害の特徴と合わせて述べる。この地域で災害リスクの高い土地でも1970年代以降宅地化が進んだ理由として考えられることを述べる〕。▶北海道と沖縄県の都市部では平らな屋根の住宅が多く見られるが、それぞれの理由を気候に関連づけて述べる。▶日本の住宅構造は、1978年には木造が81.7%であったが、2018年には非木造が43.1%に上昇している。非木造住宅の割合が上昇してきた理由を人口移動の特徴もふまえて述べる。▶日本の住宅総数と空き家率の推移（1973年～2018年）を示したグラフをもとに、住宅総数は長期的に増加を続けてきたが、近年空き家率の上昇が著しい理由として考えられることを述べる（指定語句：世帯規模、地方圏、高齢化）。</p>
東京学芸大学	8	800 字 程度	100 字 程度 60～200	<p>▶日本付近の4枚のプレート境界を示した図をもとに、プレートとの関係（地体構造）をふまえた日本列島の地形と特色を説明（指定語句：弧状列島、西南日本、フォッサマグナ）。▶扇状地と三角州における自然発生的な集落の立地条件について、水との関係をふまえて説明する（指定語句：自然堤防、水害、扇端、扇頂）。▶扇状地の扇央で液状化現象が発生する可能性は低いと考えられる理由を、液状化現象の発生メカニズムをふまえて述べる。▶河川の両岸にみられる河岸段丘の形成過程と、段丘面が沖積低地に比べ水害に強い土地であるといわれる理由を説明。▶アメリカ合衆国、イギリス、韓国、日本、フランスについて、主要な食料の輸入量とその平均輸送距離を示したグラフに基づき、日本の食料輸入の特徴と課題を説明。▶東京都の居住地域にみた女性の雇用者数に対する女性の正規職員・従業員数の割合を示した地図をもとに、東京の郊外の地域において、働く女性のうち正規の職員・従業員として働く人の割合が低くなる理由を説明（指定語句：都心に立地する勤務先の理解、都市域が拡大、保育園）。▶サハラ砂漠南縁に位置するサヘルの気候環境の特徴と、サヘルで砂漠化が進行している主な要因・背景を説明。▶サハラ以南アフリカに位置する多くの国の経済低迷や食料不足が続く要因・背景となった「モノカルチャー経済」の特徴と問題点を説明（指定語句：一次産品、プランテーション、輸出）。</p>
一橋大学	9	1200 字	130 字 100～150	<p>▶ウガンダ・カンバラ市において、空き地などを不法占拠しての耕作で取り締まりの対象とされることが多い住宅地を、4つのタイプの住宅地の土地所有率と耕作地の位置を示した表から選び、そう考えた理由を説明。▶日本で、コンパクトシティの形成を進めようとする政策などによって都市農業が促され、都市と地球環境の持続可能性はいかにして高まると考えられるかを、コンパクトシティ形成と関連させながら説明。▶都市農業が社会的課題の解決に役立つと考えられている理由を、問題文で解説されたトロントの例を用いながら、移民が直面する問題の社会的な性格と、都市農業がそれをどのように解決しうるかに言及して説明。▶アフリカとラテンアメリカにおける流域面積最大の河川名をそれぞれあげ、その大河周辺の環境への開発の影響を比較し、2地域の開発目的の違いとグローバルな共通の課題を説明。▶ケニアのナイヴェアシャ湖周辺で輸出向けの花弁産業（バラ栽培）が発展した要因と環境問題と対策について説明。ウユニ塩原周辺に埋蔵されているレアメタルの鉱種と主な用途を答え、この国独自の資源開発の状況を説明。▶2016年に初めてパナマ運河を通過した日本向けのLNG船の出航国を答えるとともに、この国から運河を通航して輸入することは日本にどのような利点があるかを説明。スエズ運河とパナマ運河の2007年と2017年の通航状況を示した表をもとに、両運河の拡張によって通航貨物はどのように変化しているかを論じる。▶大人が想定していない場所が子どもの遊び場となる事例として、日本国内で考えられる場所の具体的な例を一つ取り上げ、都市構造の変化によって子どもの遊び場がどのように変質してきたかを説明。▶ノルウェーの子どもたちの余暇活動の2回の調査の結果を示す表をもとに、子どもの余暇時間の使い方の変化と2回目の調査時点で「組織的活動」、「外遊び」、「友人訪問」の3つの余暇時間の使い方が相互にどのように関係しているかを説明。▶インドネシア・ジャカルタ中心部にある性格の異なる2つの住宅地における、小学生の遊び場と小学生の近隣とのかかわりを示した表から読み取ることのできる両住宅地の違いを居住環境の違いと関連づけながら説明し、続けて子どもの遊びを計画と秩序のなかに取り込むことには注意が必要なることを、ジャカルタの事例から論じる。</p>

表10 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その2（2023年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
新潟大学	8	580～760字	80字 20～200	<p>▶地図中の海域（北海）に多くの風力発電設備が設置されている背景を、海底地形と風の状況に留意して述べる。</p> <p>▶再生可能エネルギーを活用して化石燃料への依存度を減らすことが、エネルギー安全保障を強化すると考えられている理由を説明。</p> <p>▶世界の空港の貨物取扱量、国際線の乗降客数、発着機数の上位5位までを示した表から、国際線の乗降客数に該当するものを選び、その理由を述べる。</p> <p>▶モーダルシフトの例として、長距離トラック貨物輸送を船舶や鉄道で代替する取り組みにより期待される効果について、自動車輸送の問題点に留意しながら説明。</p> <p>▶地形図読図（地形図（兵庫県三田市）中に枠線で示された範囲の土砂災害の警戒区域ハザードマップから、可能性の高い土砂災害がどのように発生するかを説明。地形図中に示された場所にある倉庫の写真から、その場所に立地する理由を述べる。三田市の鉄道網整備に関する年表と地形図から、市街地がどのように拡大したかを説明（指定語句：丘陵地、城下町、鉄道駅）。地形図中に示された地区（新興住宅地）と三田市全体の高齢者の割合の推移を示したグラフから、市全体より高齢者の割合が急激に高くなった理由を説明）。</p>
信州大学	2	400字	200字	<p>▶地形図読図（地理院地図の陰影起伏図（静岡県安倍川河口から三保松原付近）から、図中の海岸線と平行な土地の高まり（海岸砂丘）と半島（砂嘴）の地形の形成について説明（指定語句：沿岸、Q川、東北東、土砂の供給、波））。</p> <p>▶アフリカの6か国（チュニジア、ニジェール、ナイジェリア、南スーダン、ケニア、南アフリカ共和国）について、国の概況（主要言語、主な宗教、独立年月、一人あたりGNI）を示した表から、該当する国の位置を地図から選び、そのように判断した理由を説明。</p>
愛知教育大学	8	1200字程度	150字程度 60～300	<p>▶高校地理の教科書の大地形の成因に関する説明が、昔と現在で変化していることに関する会話文をもとに、天山山脈が高くけわしい山脈となった仕組みを説明（指定語句：プレート、褶曲、準平原）。</p> <p>▶教科書の大地形の成因に関する考え方が変化した理由を述べ、さらに将来、教科書が変化することをふまえて、教員として社会科を教える際に、どのような姿勢で臨みたいと考えるか、自分の考えを述べる。</p> <p>▶北アメリカと西ヨーロッパに典型的に見られる都市景観のモデル図をもとに、両地域の都市景観に違いが生じる理由を説明。</p> <p>▶1950年、1975年、2010年における日本の都市（圏）を、x軸に順位、y軸に人口規模で10位まで示したグラフを見て、第二次世界大戦後の日本にどのような変化が生じたかを、日本の実質GDPの前年度比の推移を示したグラフも参考にしながら、その背景も含めて説明。</p> <p>▶新型コロナウィルス感染症の拡大によって、都市空間にどのような変化がもたらされると考えられるか述べる（指定語句：大都市圏、都心部、オフィスビル、地方移転、リモートワーク）。</p> <p>▶ヴィクトリア湖と比較して、タンガニカ湖の水深が深い理由を説明。</p> <p>▶アフリカの河川に滝と急流が多い理由を説明。</p> <p>▶3つのグラフ（1950年から2100年の世界と地域別人口の推移、2010年と2015年の対アフリカ投資残高上位国、アフリカの対世界輸入品目のシェア）をもとに、アフリカの将来性や問題点について説明（指定語句：人口増加、投資、モノカルチャー、食糧問題、商品作物）。</p>
名古屋大学	14	1200字程度	90字程度 30～150	<p>▶世界と日本の河川の河床縦断面図をもとに、日本の河川の特徴を世界の河川と比較して説明。</p> <p>▶地形図読図（天竜川（支流を含む）周辺の上流・中流・河口の地形図をもとに、上流の地形（V字谷）の形成過程を説明。中流の土地利用を地形（河岸段丘）と関連させて説明。河口付近の海岸に離岸堤が設置された背景を、流域の開発の観点を含めて説明）。</p> <p>▶5か国（中国、インドネシア、日本、アメリカ合衆国、ペルー）の養殖による水産物生産量を示した表で、海面養殖、内水面養殖、汽水面養殖を判定し、その判断理由を説明。</p> <p>▶エルニーニョ現象について説明（指定語句：海水温、海流、南東貿易風、湧昇流）。</p> <p>▶ペルーの漁獲量のほとんどを依存する特定の魚種の名称を答え、それがどのように加工され、何に利用されるかを説明。</p> <p>▶東アジアとヨーロッパの間の海上輸送で、ベリング海峡を通る航路の利用が可能になった理由を気候変動と関係づけて説明。</p> <p>▶スエズ運河を通る航路で生じている航海の安全を脅かす問題について、具体的にどこで、どのような問題が発生しているかを説明。</p> <p>▶日本の輸入上位相手国を示した表中のa国（アメリカ合衆国）との貿易摩擦を背景に、1980年代半ば以降日本企業の生産拠点の配置がいかに変化したかを説明。</p> <p>▶b国（オーストラリア）からの主な輸入品の割合を示したグラフに示された2品目（石炭、鉄鉱石）のb国における産出地の地理的分布の特徴を述べる。</p> <p>▶b国（オーストラリア）がアジア地域との経済関係を強めている背景を述べる（指定語句：移民、旧宗主国、距離、EC）。</p> <p>▶c国（中国）が2000年代以降日本最大の貿易相手国となった背景を述べる（指定語句：工場、資金、日本企業、輸出）。</p> <p>▶日本、中国、d国（韓国）の新造船建造量の推移を示したグラフをもとに、1980年代から1990年代にかけてのd国の建造量の推移の背景を説明（指定語句：経済協力、工業化政策、重工業、輸出指向）。</p>
京都大学	16	600字程度	35字程度 20～60	<p>▶ヨーロッパの地図に示されたQ（エルベ川河口）の地形の成り立ちについて、P（ノルウェー沿岸）との共通点と相違点を述べる。</p> <p>▶E国（デンマーク）における再生可能エネルギーを利用した発電方法とそれが採用されている自然環境的な要因を述べる。</p> <p>▶C国（スウェーデン）の北端付近で採掘される鉱産資源の名称を答え、主に冬季の積み出しに使われる港を選んで、その理由を述べる。</p> <p>▶南アメリカの地図中のA地域（アンデス高地）とB地域（アマゾン川付近）の植生と生業の特徴を述べる。</p> <p>▶B地域で「土地なき人を、人なき土地へ」の政策を掲げる背景の1つとなっている都市問題について述べる。</p> <p>▶日本と世界の5か国の産業別就業人口割合の変遷を示した三角グラフをもとに、B国（中国）において、飲食店などで現金に代わってとられるようになった支払い方法について述べる。</p> <p>▶A国（インド）で、近年自動車産業やICT産業の工場が集まる地区に大規模な商業施設がつくられる動きは、同国の消費者のどのような変化を反映したものをか述べる。</p> <p>▶E国（アメリカ合衆国）で、20世紀半ばから郊外につくられるようになった大規模な商業施設の名称と、その立地と施設に関する特徴を述べる。</p> <p>▶日本で、商店街はその商圏の広さから、近隣型、地域型、広域型に分けられるが、それぞれの種類の商店街で扱われる商品の違いについて述べる（指定語句：買い回り品）。</p> <p>▶日本のある地方中心都市と周辺自治体における小売業販売額の推移を示したグラフをもとに、この地方中心都市で市民に長く親しまれてきた百貨店が閉店することになった理由を述べる。</p> <p>▶西アジアの地図に示された民族W（クルド人）の居住地の地形的特徴と、約3000万人の人口にもかかわらず独立した国家をもっていない理由について、地図からわかることを述べる。</p> <p>▶地形図読図（球磨川河口の5万分の1地形図とその中心市街地周辺の昭和40年と平成23年の2万5千分の1地形図をもとに、中心市街地の西側の土地が人工的な土地造成に適していた理由を、自然環境の観点から述べる。造成地の土地の標高に着目し、どのような方法で造成されたかを説明。3つの大型工場に共通する立地を、当時の市街地との関係および交通の観点から述べ、新旧の地形図を比較し工場をめぐる輸送環境の変化について説明。江戸時代に都市の中核であった地域に集まる施設を2つの機能に分類し、それぞれの機能に対応する地図記号をあげて説明。3つの大型工場以外に工場が集中している地区について、その立地と交通上の利点を述べる）。</p>
大阪大学	7	950字程度	140字程度 50～250	<p>▶アフリカの国・地域ごとにウシの頭数を示した図形表現図をもとに、その分布の特徴を自然環境との関係に言及しながら述べる。</p> <p>▶チベット・ヒマラヤにおけるウシの牧畜の特徴がアフリカと異なる点を、自然環境の違いを考慮して説明。</p> <p>▶アンゴラとエチオピアにおける実質GDP成長率の推移を示したグラフをもとに、図から読み取れる両国の経済の推移とその背景を述べる（指定語句：人口、労働力、海外企業の誘致、資源への依存、原油価格）。</p> <p>▶サハラ以南アフリカで紛争鉱物（紛争地域で採取される鉱物）を規制することが困難な理由を説明。</p> <p>▶地形図読図（宍道湖と大橋川の一部の地形図をもとに、汽水湖の特色を述べる。地形図中の城下町（松江市）を例に、日本の近世の城下町の防衛機能について述べる（指定語句：城、堀、水路、道路形状、寺院、町割り）。地方都市の中心商店街の衰退要因について、地図から読み取れる事項を盛り込んで述べる）。</p>

表10 国公立大二次の論述問題の分量とテーマ：その3（2023年度）

	論述 問題数	総字数	1題あたり 平均字数	テーマ（設問内容）
九州大学	6	1080 字	180 字 120 ～ 200	▶ 19 世紀後半から現在までのアメリカ合衆国北東部と五大湖沿岸における工業地域の形成とその変化について述べる（指定語句：自動車産業、先端技術産業、炭田）。▶ 1970 年以降、フィレンツェやヴェネツィアを囲むイタリア中部から北東部の地域に集積している産業およびその生産方式の特徴について述べる。▶ 多国籍企業による分業体制やそれが地域に及ぼす影響、近年におけるその変化について述べる（指定語句：研究・開発部門、現地化、発展途上国）。▶ アマゾン地域とアンデス山脈における伝統的な自給的農業の特徴について述べる。▶ 大土地所有制（ラティフンディオ）の特徴とそれがラテンアメリカの社会構造に与えた影響について述べる。▶ 20 世紀後半以降のブラジルにおける農業生産の変化とそれが社会に及ぼしている影響について述べる（指定語句：アグリビジネス、カンボ・セラード、ファベラ）。
長崎大学	9	1000 字 程度	120 字 程度	▶ ツンドラの植生上の特徴を説明。▶ 宿場町における宿泊以外の主要な施設名1つを含め、宿場町が成立した理由を説明。▶ 4 か国（アルゼンチン、エジプト、フランス、ポーランド）の人口の自然増加率と都市人口率を示したグラフから、ポーランドに該当するものを選び、なぜポーランドがこうした値を示すかを説明。▶ ヨーロッパの国際観光収支の黒字額上位5 か国と赤字額上位5 か国を示した表の赤字額上位国がいずれかを判定し、赤字額上位国は黒字額上位国と比べて地理的にどのような特徴があるかを説明。▶ 東南アジアにおけるアブラヤシ、コーヒー、サトウキビ、バナナの主要な栽培地域を示した地図をもとに、アブラヤシに該当するものを選び、東南アジアにおけるアブラヤシの栽培を自然環境と経済の両面から説明。▶ 地形図読図〔茨城県の太平洋沿岸（ひたちなか市）の地形図に示された5 地点の付近の地形を明示して、この地域の地形と土地利用の関係を説明〕。▶ 明治以降の日本において鉄鋼業の立地はどのように変化してきたかを、具体的な地名をあげながら説明。▶ 近代以降の南アジアから域外への移住について、主な移住先（地域または国）、移住の理由を明示して説明。▶ 三大都市圏と非三大都市圏における中学生の親の学歴・世帯収入、学校の設置者種別通学者割合、公立中学生の地域別通塾率を示した表をもとに、地域別に見た公立中学生の学習塾に通う率にどのような傾向がうかがえるかを述べ、その傾向がどのような理由に基づくと考えられるかを説明。
高崎経済 大学(前期)	9	700 字 程度 (推測)	80 字 前後 (推測)	▶ 地形図読図〔滋賀県「海津」の図幅をもとに、なぜ扇状地では扇端部で水が得やすいかを、扇状地の地形的・地質的特徴をふまえて説明。図中の範囲B（扇央部）で読み取ることのできる特徴的な土地利用とその理由を説明。百瀬川に一定間隔で設置されている人工物を具体的に答え、設置されている理由を説明〕。▶ 1980 年代に大規模なリゾート開発をおこなった地域では、バブル経済期以降にどのような問題に直面したか答える。▶ ムスリム観光客に向けた受け入れ国側の配慮を説明。▶ 2019 年末に発生した新型コロナウイルス感染拡大が、日本の観光業にどのような影響を与えたか答える。▶ ボーキサイトをアルミニウムにするにはどのような製造工程が必要かを説明。▶ アメリカ合衆国でみられるように、先端技術産業が特定の地域に集積する理由を説明。▶ 1994 年から2020 年の間、北米自由貿易協定（NAFTA）によってアメリカ合衆国の企業がメキシコに進出するようになった理由を説明。
高崎経済 大学(中期)	6	500 字 程度 (推測)	80 字 前後 (推測)	▶ 「モノカルチャー経済」とは何かと、その短所を述べる。▶ 「アパルトヘイト」に関して説明。▶ カナート（カレース）の仕組みを説明。▶ アメリカ合衆国における1965 年と2013 年の肉牛の州別飼育頭数の図形表現図をもとに、肉牛の飼育がさかんな地域が変化した背景を述べる。▶ バイオエタノールがカーボンニュートラルな燃料とされる理由を述べる。▶ アマゾンにおいて発生した「ブラジルの水俣病」と呼ばれるのはどのような問題かを説明。
東京都立 大学 (文系)	12	1500 字程度 (推測)	125 字 前後 (推測)	▶ 地形図読図〔徳島県美馬市脇町付近の地形図をもとに、地図中の破線で囲った範囲の治水地形分類図の3つの凡例が「旧河道」、「後背湿地」、「自然堤防」のいずれかを判定し、その判断理由を答える。図中の大谷川が「かれ川」となっている理由を説明。図中の河川（吉野川）の両岸に連続して見られる竹林が果たしている防災上の役割を具体的に説明。脇町の伝統的町並みの写真をもとに、このような町並みがこの場所に成立した理由を自然条件と人文条件をふまえて説明〕。▶ 大陸ごとの高度別面積割合を示した図をもとに、アジア、南アメリカ、オーストラリアに該当するものを答え、その判断理由を説明。▶ 地図中の線分PQ（日本列島南方の緯線）に沿った海底地形の断面図をもとに、PQ 間の海底地形について説明（指定語句：海溝、海洋底、太平洋プレート、大陸棚、フィリピン海プレート、ユーラシアプレート）。▶ 地図中の線分RS（アフリカ大陸中央部の赤道をまたぐ経線）に沿って分布する気候について、低圧帯と高圧帯の分布を考慮して説明。▶ 国別の栄養不足人口割合を示した階級区分図をもとに、食料不足が深刻な地域がどのように分布しているかを述べ、その要因として考えられることを2つあげる。▶ カカオ豆、コーヒー豆、パーム油の生産上位国を示した表をもとに、特定の農産物生産量が多いにもかかわらず栄養不足人口の割合が高くなる理由を説明。▶ アメリカ合衆国の州別の肥満人口割合と世帯当たり所得の階級区分図をもとに、アメリカ合衆国における肥満の分布傾向とその要因を述べる。▶ 日本の品目別食料自給率の推移を示したグラフをもとに、その変化と背景を述べる。▶ 都道府県別の食料品販売店へのアクセスが困難な高齢者人口の割合の図をもとに、この問題が深刻な地域の特徴と発生要因を述べる。
東京都立 大学 (理系)	11	1200 字程度 (推測)	120 字 前後 (推測)	▶ 地形図読図〔地理院地図（千葉ニュータウン中央駅付近）をもとにA からH までの地点を結び移動経路の最高点と最低点の比高と、そのように判断した理由を答える。地点Cの集落（向新田）の成り立ちを地名から判断して答える。地点Eから半径300m 以内に見られる主な農地を地図記号から判断して2つあげ、そのような農地利用が成立した理由を自然条件に注目して答える。地点A 付近の整然とした区画の住宅地と地点D とF 付近の細長く広がる集落の集落形態の違いが生じた理由を、自然条件と人文条件から説明〕。▶ ナイル川にダムが建設されたことによって、下流域や河口域で生じた問題を2つあげ、生じた過程とともに答える。▶ 赤道付近にあるにもかかわらず、キリマンジャロ山などの山頂付近に氷河が形成されている理由を答える。▶ アフリカ大陸の宗教と言語について、北回帰線付近と南回帰線付近との間にみられる違いを答える。▶ 国際的な企業であるA 社のスマートフォンやパソコンに使われる電子部品を製造する事業所の数を、都道府県別に示した地図から読み取れる、電子部品を製造する事業所の立地傾向について説明。▶ A 社の本社のあるアメリカ合衆国のシリコンヴァレーにICT 産業の研究開発部門が集積する背景について答える。▶ 日本からの半導体製造機器輸出額の国・地域別推移を示したグラフから、ア国(中国) への輸出額が2020 年以降急に増えている背景を答える。▶ 2010 年のイギリスでのアンケート調査をもとに作成した、ネットスーパーを使ったことのない回答者と頻繁に使う回答者の最寄りの実店舗までの平均距離を示した表から、ネットスーパーの利用について読み取れることを答える。

2023年度 大学入学共通テスト 世界史Bの分析

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 井上 徳子

1 はじめに

2023年の共通テスト世界史B本試の平均点58.43点は、昨年の65.83点から7.4点下がった。センター試験時代を入れると2003年の56.53点並の低得点であり、地歴B科目の中で一番低かった（日本史B 59.75、地理B 60.46）。

2 概略

分量：大問5題、小問34問は、共通テスト元年の2021年や昨年2022年と同じ。ただし、問題のページ数が増加しただけでなく、会話文や資料を読み取る問題が増加したため、分量は全体として増加しており、解けども解けども先が見えない分量は、受験生にとって負担だっただろう。

時代：前近代史からの出題が多く、古代史からの出題が増加した。例年正答率が低い第二次世界大戦後からの出題が減少し、戦後のみを扱う小問はなく、選択肢の一部として出てくるのみであった（のBRICS(BRICs)、のキング牧師）。

地域：アジア・アフリカ史と欧米史の比率はほぼ同じだったが、アフリカ史やオセアニア史からの出題はほとんどなく、中国史・イスラーム史・東南アジア史からの出題がめだった。

分野：例年通り政治史中心だが、第5問が社会経済史中心だったことから、社会経済史からの出題が増加した。文化史では中国文化史が多かった。

形式：大問5題中4題、計6か所で文字史料が利用されており、文字史料がない1題も、表・グラフの読み取りが必要である。会話文は大問5題すべてで使用されており、計10か所という会話場面数は、昨年の5か所の倍にあたる。地図問題は1問で、昨年の3問から減少した。図版は3か所で使われたが、すべて解答に直接関係なく、試行調査のような図版選択問題はなかった。また、空欄

補充問題は単語を入れる空欄が激減して文を入れる空欄が増加した。単語を入れる空欄の場合は、空欄に入る用語と関連情報の組み合わせ問題になっていたり、空欄に入る用語についての4文正誤判定問題（次頁の例題2がその一例）とするなど、単純な空欄補充問題にならないよう工夫されている。資料の読み取りと既得の知識を組み合わせて総合的に判断する4文正誤判定問題、できごとの背景や結果、変化を問う問題も増加した。

3 正答率が低かった問題

■例題1 2023年度共通テスト本試：第1問 問5

山口：（前略）女性が活潑な状況が現れた背景は、いったい何でしょうか。

藤田：著者の推測に基づくなら、に由来すると考えられます。

中村：あっ！ ひょっとして、この時代の北方の状況が、中国に女性皇帝が出現する背景となったのでしょうか。

教授：中村さんがそのように考える根拠は何ですか。

中村：ええと、それはからです。

教授：ほう、よく知っていますね。

（後略）

問5 文章中の空欄に入れる文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 唐を建てた一族が、北朝の出身であった
- ② 唐で、政治の担い手が、古い家柄の貴族から科挙官僚へ移った
- ③ 隋の大運河の完成によって、江南が華北に結び付けられた
- ④ 北魏で、都が洛陽へと移され、漢化政策が実施された

「この時代の北方の状況が、中国に女性皇帝が出現す

る背景となった」と考える根拠を問う問題で、河合塾が集めたデータで、受験生全体および現役生で一番正答率が低かった問題である。正解①の選択者が一番多かったとはいえ、③④の選択者がそれぞれ約4分の1を占めた。「この時代」、つまり資料（6世紀後半）の筆者顔之推が見た分裂時代の「北方の状況」と、中国の女性皇帝、つまり則天武後の出現とのつながりを、短文を読んで判断する必要があるが、その際に注目しなければいけないのは、中村さんの根拠が、中国で「女性が活発な状況が現れた背景」が「イ」に由来するという藤田さんの考えの影響下にあることであり（実際の会話では、前の発言をふまえず発言することはあるが、今回は、「あっ！ひょっとして」と前の発言を受けていることを明確に示す文言がある）、問4で「イ」を「北魏を建国した鮮卑の風習」と正しく答えないと、問5でも正解できないというように、問4と問5は連動していた。問4で④「隋による南北統一」を選んだ者は問5で③を選ぶだろう。ただ、大運河の完成による江南と華北の結びつきと女性皇帝の出現は因果関係がおかしい。また、問4で正解できたのに問5で④を選択した者は、漢化政策（鮮卑の風習の禁止）と女性皇帝の出現（鮮卑の風習に由来する現象）は矛盾していることに気づく必要があった。帝国書院『新詳 世界史B』（以下、教科書）は、本文で拓跋国家についての説明があり（p.65）、教科書に基づく学習をしていた受験生には有利な問題だった。

4 得点差がついた問題

■例題2 2023年度共通テスト本試：第4問 問4

文章中の空欄「ウ」の戦争について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① イオニア地方のギリシア人の反乱が、この戦争のきっかけとなった。
- ② この戦争でギリシア人と戦った王朝は、エフタルを滅ぼした。
- ③ この戦争の後に、アテネを盟主としてコリントス同盟（ヘラス同盟）が結成された。
- ④ ギリシア軍が、この戦争中にプラタイアイの戦いで敗北した。

河合塾が集めたデータで現役生と高卒生で一番差がついた問題で、会話文から「ウ」がペルシア戦争だと読

み取ったうえでの正誤判定問題である。誤文③の選択者が高卒生で非常に少ない一方、現役生では約4分の1にのぼった。「ウ」の直前に「マラ톤の戦い」があることなどから「ウ」の特定は容易であり、ペルシア戦争のきっかけが「イオニア植民市の反乱」であることはおそらく学ぶであろうから、正解の①が選択できなかった理由は、「イオニア植民市の反乱」がギリシア人の反乱だという内容の理解ができていなかったことにあるだろう。

5 現役生の弱点

今回、現役生の正答率が低かった問題の一つ、第1問 問1で、「①ピョートル1世が、北方戦争でイギリスを破った。」の選択者が現役生で多かったことも、現役生は用語は知っていても、北方戦争についての内容理解が伴っていないことを示している。

このほか、現役生の正答率が低かった問題は、**時期に関わる問題**である。第1問 問3ではそもそも19世紀にイギリス自治領だったのはカナダのみであること、第4問 問7の時代配列問題ではグレゴリウス1世の時代がわかっていなかった。そして、例年のことだが**文化史に関わる問題**も正答率が低く、例えば、歴史家とその作品名との組み合わせ、その作品が扱う内容などを問う第4問 問5の正答率が低かった。

結局、世界史の正確な知識の有無で点差がついている。正確な知識には、できごとの内容、因果関係、背景、影響、時期なども含まれる。したがって単語の暗記に終始するのではなく、教科書を丁寧に理解する学習が必要である。なお、今回出題が少なかった第二次世界大戦後史は来年以降、要注意である。

6 展望

今回、平均点が伸び悩んだ理由として考えられることは、資料や会話文の読み取りが多く、しかも空欄や下線部の前後だけを参考にすればよい問題ではないこと、用語そのものではなく内容を問う出題が多かったことである。昨年11月に公表された共通テスト『歴史総合、世界史探究』の試作問題も、この共通テストの方向性の延長線上にあった。本試の問題を解くだけではなく、模試の活用などを通じて、問題演習量を積極的に確保し、形式に慣れる必要がある。そして、さまざまな事象の横のつながりや縦の流れを意識した、教科書を徹底的に活用した学習が必要である。

2023年度 国公立大学入試

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 山内 秀朗

1 はじめに

2023年度は、文書史料や地図・グラフ・図版などの資料読解を要求する形式の問題が多く出題され、新課程を先取りした感がある。昨年度の本誌では、戦争と戦後秩序や人権思想に関連する問題を予想したが、実際に多く出題された。関連する主権国家と主権国家体制・国民国家をテーマとした問題もめだった。本誌でもその背景として指摘していたロシア＝ウクライナ戦争の影響から、ロシアと周辺地域に関する問題も多かった。時間軸と空間軸、世界の一体化は例年どおり主要な出題テーマとなり、世界史の中の日本のテーマも定着してきている。

2 資料読解を要求する問題

資料読解を要求する問題は、東京外国語大学、一橋大学、大阪大学などの以前から出題されていた大学に加え、2023年は東京都立大学第2問で、2つの史料からの読み取りを前提とする400字以内の論述問題が出題された。また、大阪大学第2問でヨーロッパと日本で描かれてきた世界図の図版資料を参照する問題が、東京大学第1問と一橋大学第2問で地図を参照する問題が出題されるなど、歴史的史料の読解以外にも図版や地図などの読解を要求する問題が出題されていた。

3 主権国家・主権国家体制・国民国家に関する問題

主権国家成立以前のヨーロッパの権力構造を考えさせる問題として、前述の東京都立大学第2問は「11世紀中頃から13世紀中頃までの、皇帝権および教皇権がおかれた状況と両者の関係」を説明させる問題だった。一橋大学第1問は、大学公表の出題意図として、「百年戦争がどのような点で近代的な意味での国家間の戦争ではなかったかを問う」問題であった（例題1）。

大学公開の出題意図では、「イギリス国王が同時にフランス国王の封臣でもあり、フランス王国が王権によ

■例題1 2023年度 一橋大学：第1問

第1問 ジャンヌ・ダルクの活躍によって有名ないわゆる英仏百年戦争（1337～1453年）を、イギリスとフランスという二つの国家間の戦争と捉えることが必ずしも適切ではないとすれば、その理由は何か答えなさい。また、この戦争が結果的にフランス王国にどのような変化をもたらしたかを、上述の理由と関連付けて説明しなさい。

て中央集権的に支配されているわけではない中世という状況を理解しているかどうか」が問われている。問題文では、百年戦争の開始がイギリス王による王位継承権要求を口実とした1339年ではなく、フランス王が封臣であるイギリス王の領土没収を宣言した1337年となっていることに注目したい。この点について、『新詳 世界史B』（以下、教科書）では、「1337年フィリップ6世がギューイエンヌ地方の没収を宣言すると、イングランド王エドワード3世は母親がカペー家出身であることからフランス王位継承権を主張し、百年戦争が始まった。」（p.107）と1337年の領土没収を明記している。また、注では「フランドル伯でもあったブルゴーニュ公はイングランドと同盟関係にあったが、1435年にシャルル7世と和解した」と、大学側が要求している「王権によって中央集権的に支配されているわけではない」具体例を提示している。教科書で学習していた受験生には有利な問題であった。

主権国家体制と異なる東アジアにおける国家権力と国際秩序のあり方として朝貢・冊封の体制と、それを支える華夷思想が注目されてきた。名古屋大学の第1問は、華夷思想をテーマとする問題であり、東京学芸大学第1問の問9では朝鮮王朝の小中華思想が120字以内の論述問題として出題された。近代国民国家関係の問題としては、東京大学第1問が、1770年前後から1920年前後までに、ヨーロッパ、南北アメリカ、東アジアにおいて、諸国で政治のしくみがどのように変わったか、どのような政体の独立国が誕生したかを、地図を参照して600字以内で論述させる問題であった。九州大学第1問では、東欧・中東諸国の近代化と青年将校による反乱の関係が500字以内の論述問題で出題された。また、主権国家

体制下における戦争と平和維持の問題として、**名古屋大学**第4問で、第一次世界大戦後の国際秩序の展開が450字以内の論述問題で出題された。**大阪大学**第3問は第一次世界大戦後の平和秩序維持がなぜうまくいかなかったかを問う問題であった。**新潟大学**の第3問 問7では、安全保障理事会の構成と権限が60字程度の論述問題で出題された。人権関係のテーマについては、**千葉大学**第3問が、ジョン＝スチュアート＝ミルの『女性の隷従』を史料に、問2で奴隷制問題を要因として南北戦争を、問3でイギリスにおける女性選挙権運動と政権の変化を論述させる問題であった。**一橋大学**第2問は、モザンビークとジンバブエの独立の事情を問う問題であるが、背景として、両地域における白人支配体制と、それに対する黒人の解放運動と OAU や国際世論との関係の理解が求められていた。**高崎経済大学**経済学部中期日程の第3問は、アメリカ独立宣言、フランス人権宣言、世界人権宣言を史料として用いており、問12は世界人権宣言の歴史的意義を130字以内で説明する問題であった。ロシア（ソ連）関連の問題としては、**新潟大学**第2問 問5は、「スターリン憲法」と「粛清」の指定語句を用いて第二次五カ年計画期におけるソ連の国内状況を100字以内で説明する問題だった。ロシア（ソ連）が関係地域に与えた影響では、**東京外国語大学**第1問の問9は、英露清三国の中央アジアへの関与と相互関係を400字以内で論じる問題で、**一橋大学**第3問がロシアと中国の関係の変化と中国に与えた影響を400字以内で論じる問題であった。**筑波大学**第4問では1910年代から1980年代までのチェコスロヴァキアの歴史が400字以内の論述問題として出題されたが、指定語句には「共産党によるクーデタ」「プラハの春」「ペレストロイカ」と、ソ連との関係の理解が必要とされるものが並んでいた。**東京学芸大学**第4問 問1の③は、クリミア戦争から露土戦争までのロシアとオスマン帝国の対立過程を300字以内で論じるもので、問3の②ではペレストロイカを、問4では独ソ不可侵条約による第二次世界大戦勃発後のポーランドの状況を述べる問題であった。

4 時間軸・空間軸、世界の一体化に関する問題

京都大学の第1問は、5世紀から12世紀におけるモンゴリア、第3問はアンダルスの成立から消滅にいたるイベリア半島の歴史をそれぞれ300字以内で問う問題で、いずれも時間軸の問題であった。**大阪大学**文学部でもイベリア半島の歴史が出題された。空間軸では、交易

関係の問題が2023年も多く出題された。**筑波大学**第2問は、宋～明初期の中国王朝の国内商業と対外貿易を400字以内で説明する問題であった。**千葉大学**第2問は、銀の流通に関して、問2で銀とアカプルコ貿易を、問3で一条鞭法をあげつつ銀流入による明社会の変化を、問4で16世紀の銀流入によるヨーロッパ農村社会の変容をそれぞれ100字以内で説明する問題であった。**九州大学**第2問の問7では、明の交易秩序再編の経緯が、**北海道大学**第1問の問3ではカーリー商人の活動と交易路の変動、第2問の問6では元の交通網が問われた。**大阪大学**外国語学部第1問 問3では、フランス王のモンゴル皇帝への提案の背景が300字程度で問われた。

5 「世界史の中の日本」に関する問題

新潟大学第2問の問7では、韓国併合の過程が90字以内で問われた。**東京学芸大学**第3問は、図と史料で18世紀～20世紀初頭の東アジアの国際関係を出題したもので、問3では朝鮮通信使が解答として要求され、問8ではこの時期の朝鮮国の国際関係の変化の説明が180字以内で要求された。先述の**大阪大学**第2問では、ヨーロッパと日本の間の情報交換の歴史が出題された。**名古屋大学**第3問は日本・中国・台湾の関係を問うもので、二・二八事件についても問われた（**例題2**）。

■例題2 2023年度 名古屋大学：第3問 問8

問8（前略）台湾では日本による統治が終了した後、中国大陆から台湾に渡ってきた外省人と、もともとの台湾の住民であった本省人とのあいだで対立が深まり、1947年に□ツ□事件が発生した。（略）

台湾の外省人と本省人の対立について、教科書では「現代につながる諸問題⑦模索する台湾」（p.228）で扱い、『最新世界史図説 タペストリー二十一訂版』（以下、『タペストリー』）のp.301にも記事がある。二・二八事件は教科書本文（p.291～292）に詳しい記述がある。日本を含む東アジアの近現代史については、教科書や『タペストリー』を使ってしっかりと学習しておきたい。

6 来年度の展望

史料だけでなく、地図や図版の読解を要求する問題への対応を進める必要がある。また地理的理解と年代的理解は、空間軸と時間軸の問題はもちろん、国公立大学の二次試験で多く出題される論述問題では必須である。現在世界で起こっていることを、歴史的に考察する視点の問題も多く出題される。国際秩序と人権のテーマは2024年入試においても注意しておきたい。

2023年度 私立大学入試

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 坂本 新一

1 私立大学入試の傾向と対策

近年の特徴的な出題傾向として、「世界史の中の日本」「ジェンダー」「グローバル化」「現代社会の諸問題」などが挙げられよう。また、「時間軸・空間軸」をふまえて、「史料・図版・グラフなど」を用いて出題する形式が増えている。これらの傾向をふまえて、今回は「食料・農

■例題1 2023年度 立教大学：2月8日〔2〕

〔2〕 人の生命や健康を守ることは、人類史上の普遍的なテーマである。人命を脅かす存在としてまず挙げられるのが食糧不足である。（イ）は18世紀末の著書『人口論』において、食糧の増産は人口の増加に追いつかず、人口増加によって食糧危機が発生する可能性が高いと論じた。

（略）

飢饉は政策やその失敗によって生み出されることもある。ナチス＝ドイツは独ソ戦の開始後、占領地の食糧をドイツに送り、占領地のスラヴ人やユダヤ人の間での飢饉を意図的に発生させる「飢饉計画」を実行した。中国では毛沢東が発動した大躍進運動において、農業の生産向上を目指し、行政と経済を一体化した（ロ）と称する集団農場の組織を農村に導入したが、運動は失敗して逆に大量の餓死者を出した。

そしてもう1つ、生命に対する大きな脅威が感染症である。（略）

正解：（イ）マルサス （ロ）人民公社

■例題2 2023年度 聖心女子大学：2月1日〔3〕 B

〔3〕 B 清の人口は17世紀の1億人台から18世紀末の3億人に増え、19世紀には4億人を超えた。^⑥ 資源や生産力が急激な人口成長を支えられなかったことから、中国社会は不安定化し、19世紀半ばには各地で反乱が頻発した。（略）

問8. 18世紀末に下線部（6）のような事態を恐れて、自国で人口調整の必要性を訴えたイギリスの経済学者とは誰か。その姓をカタカナで書きなさい。

正解：問8. マルサス

業・人口」をテーマとした出題を取りあげた。

2023年の立教大学・聖心女子大学ともに、マルサスを解答させている（例題1・2）。立教大学の問題文では、飢饉が天災だけではなく、政治的な要因から助長されることを示し、一方で聖心女子大学の問題文では、清朝の繁栄期に人口が増加したことに見合うだけの資源・生産力が不足していたことを示している。『新詳 世界史B』p.134では清代の人口についての説明があるほか、中国の人口動向を示すグラフも付されていた。『新詳 世界史探究』p.147では、コラムでいっそう説明が拡充し、「読み解き」として「清代に中国の人口が急増した要因を、コラムの本文をもとに複数挙げてみよう。」という学びの仕掛けが加わった。こうしたコラムを活用して、人口動態のテーマにも留意しておきたい。こうしたテーマは、今後さらに出題が増えることだろう。また、立教大学の問題文では、食料問題と合わせて感染症についても扱っており、感染症に関する出題は毎年続いている。『明解 歴史総合』のp.183「FILE.9 感染症」では、モンゴル時代のペストから新型コロナウイルス感染症までの疫病の歴史を扱っており、歴史総合の学習で養われたネットワークの視点や、テーマごとに問いを設定する意識などは『新詳 世界史探究』へ向けた学習の土台となるだろう。

例題3の関西学院大学では、1930年代におけるウクライナの飢饉が扱われている。また、ウクライナを扱いつつ、クリミア半島の領有問題といった現代社会の諸問題と関連づけている。『新詳 世界史探究』p.290本文でスターリン時代に国民が耐乏生活を強いられたことの指摘があり、さらにコラムで「視点を変えて 時代によって変化するスターリンの評価」として、飢饉についての説明が拡充された。また、ロシアによるウクライナ侵攻については、『最新世界史図版 タペストリー二十一訂版』（以下、『タペストリー』）の巻頭17「特集 今、注目のトピックから世界史に迫る」が時事問題の対策となるほか、『タペストリー』p.285「現代を読みこむ ロシア

■例題3 2023年度 関西学院大学：2月3日 [3]

[3] (略) クリミア半島がロシア共和国からウクライナに委譲されたのは第二次世界大戦後、フルシチョフ第一書記の時代だった。1991年にウクライナが独立した際にも、クリミアの国家帰属は対立を招いていた。

第二次世界大戦終結に至るまでウクライナは、ソ連の中で悲劇的な経験を重ねていた。1930年代前半には、強行された⑥農業の集団化と穀物の収奪のために、隣接諸地域とともにウクライナでも数百万ともいわれる餓死者が出た。さらに、第二次世界大戦時の独ソ戦の舞台としても膨大な犠牲者を出した。凄惨な戦争の終結に向けた協議のため、1945年2月に連合国首脳が集った□は、当時はまだロシア共和国内のクリミア半島の景勝の地だった。

[語群] □

a. カイロ b. ポツダム c. ヤルタ d. テヘラン

- ⑥ 農業の集団化に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
- 第1次五カ年計画によって推進された。
 - 集団化により新たな経済体制の構築を目指す政策はネップと呼ばれる。
 - 集団農場コルホーズでは、土地や家畜の共有化が行われた。
 - 国営農場ソフホーズは大規模で、農業経営のモデルとされた。

正解：□ c ⑥ b

のウクライナ侵攻がもたらしたヨーロッパへの影響」では、NATO加盟問題や資源問題にまで観点を広げており、入試対策として有益だろう。

例題4の東京女子大学では、中世ヨーロッパにおける大開墾の時代を扱っている。技術革新の例として重量有輪犁を問うているが、単に語句を書かせるのではなく、重量有輪犁の理解を前提として「ベリー公のいとも豪華なる時禱書」の図版を出題し、重量有輪犁が描かれている3月(え)を選択させている。『タペストリー』p.147では「ベリー公のいとも豪華なる時禱書」の3月の絵画が掲載されており(図)、日々図版を用いた学習をしてきた受験生には有利だったであろう。また、『新詳 世界史B』p.101では重量有輪犁の図版が示されており、『新詳 世界史探究』p.110では、さらに「読み解き」として「中世の農業にみられる工夫を図のなかから探し出そ

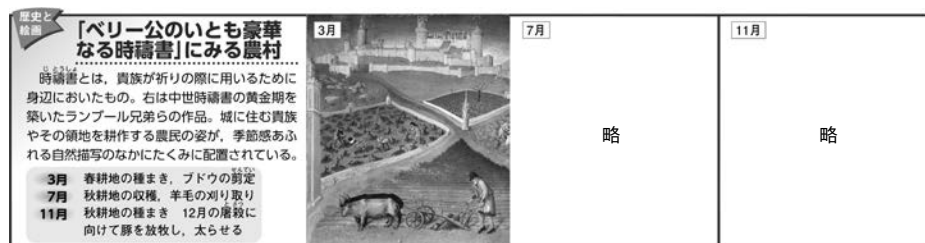


図 歴史と絵画コラム (『タペストリー』 p.147) <写真提供 ユニフォンプレス>

■例題4 2023年度 東京女子大学：現代教養学部 [2]

[2] (略) ピレネー山脈とアルプス山脈の北側は北西ヨーロッパとされる。この地域は大西洋の暖流や偏西風の影響で冬でも比較的温暖である。深い森林に覆われている場所もあったが、⑤中世を通じて開墾がすすみ、家畜を使う農業を発展させるなかでヨーロッパ世界の中心となった。(略)

問5. 11世紀になると気候が温暖になり、外部勢力の侵入による混乱もおさまった北西ヨーロッパでは社会が安定した。そして、下線部⑤にあるような大開墾の時代が13世紀前半にかけて展開したとされる。この時期の農業発展を可能にした技術革新のひとつに、アルプス以北の湿って重い土壌を深く耕す際に力を発揮する農具の導入があった。これが使用されている場面がみえるのは、下の図版(あ)～(え)のどれか。1つ選んで記号で答えなさい。

(あ)：10月 (い)：6月 (う)：9月 (え)：3月 (図版は省略)

正解：問5 (え)

■例題5 2023年度 早稲田大学：人間科学部 [4]

[4] ⑦ 人間と地球環境との関係について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。

- 12世紀以降のヨーロッパでは、シトー(派)修道会などを先頭として、森林を切り開いて耕地とする開墾運動が盛んになった。
- 地球上では気候変動が度々起きており、例えばヨーロッパでは、中世の温暖期を経て、近世から19世紀にかけて、小氷期と呼ばれる寒冷期があった。
- レイチェル＝カーソンが著した『沈黙の春』は、農業が生態系に与える影響に警鐘を鳴らし、自然環境の保護に意識を向けさせた。
- 1997年にアメリカ合衆国の主導により、温室効果ガス削減の目標数値を定めた京都議定書が採択された。

正解：⑦ d

う。」という課題が設定された。こうした課題を通じて、図版の読み解きのポイントを習得したい。

2023年の早稲田大学人間科学部は、人間と地球環境との関係を出題した(例題5)。選択肢のaで、中世ヨーロッパにおけるシトー派の開墾運動について出題しているほか、温暖期・寒冷期、レイチェル＝カーソン、京都議定書などの理解が問われている。今回紹介した「食料・農業・人口」といったテーマは、環境問題への意識の高まりを受けて、他の重要テーマと関連しながら、引き続き入試問題で出題されることだろう。

2023年度 大学入学共通テスト 日本史Bの分析

日本史

学校法人 河合塾 日本史講師 中垣 秀作

1 はじめに

共通テストが3年目を迎えた。3年目は、この2年の傾向がいつそう推し進み、高校生の主体的な学びをふまえた場面設定が昨年同様大問6問中5問、会話形式は大問4問と1問増えた。また、昨年は全体の6割強であった何らかの形で思考力・判断力を問う設問は、8割強を占めるにいたった。以下、具体的に本試の分析を試みる。

2 分量・構成・出題形式

分量は昨年と同様でマーク数32であった。時代構成も昨年と同様で、前近代と近現代の割合もほぼ6:4であった。出題形式は、文章正誤問題が最も多く、全体の6割を占めた。ついで年代配列問題、短文と語句の組み合わせ問題と続き、昨年は2問であった空欄補充の組み合わせ問題は3問になった。歴史用語の知識だけを問う設問はいつそう減少し、思考力・判断力を問う傾向がさらに強まった。

3 共通テストの特徴的傾向

(1) 多様な資料(史料・図版・統計表など)の利用

共通テストでは、史料・図版・統計表などの資料を利用した設問が実に多く出題されている。**例題1**は、中世の史料の大意(現代語訳)を読み取らせるもので、共通テスト本試全32問中、最も正答率が低かった(約9%)設問である。今年度の日本史Bは昨年度に比べ平均点が約7点上がったが、最も正答率が低かった設問の正答率は、昨年度の約20%から大幅に下がり、一けたを記録した。しかも、その設問は史料そのものの読み取りではなく、現代語訳された「大意」の読み取りであった。誤答は③に集中しており(約74%)、これは永楽通宝の需要を扱ったdを正文と判定できなかったことを示している。史料1には「永楽銭…は取引に使用しなさい」、史料2には「永楽銭…については選別して排除してはなら

■例題1 2023年度 共通テスト本試:第3問 問3

問3 下線部⑤に関連して、次の史料1は1500年に室町幕府が京都で発布した撰銭令である。また、後の史料2は1485年に大内氏が山口で発布し、1500年においても有効だった撰銭令である。史料1・2によって分かることに関して述べた後の文a～dについて、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 14

史料1

商人等による撰銭の事について
近年、自分勝手に撰銭を行っていることは、まったくもってけしからんことである。日本で偽造された私鑄銭については、厳密にこれを選別して排除しなさい。永楽銭・洪武銭・宣徳銭は取引に使用しなさい。
(『建武以来追加』大意)

史料2

利息付きの貸借や売買の際の銭の事について
永楽銭・宣徳銭については選別して排除してはならない。さかい銭^(注1)・洪武銭・うちひらめ^(注2)の三種類のみを選んで排除しなさい。
(『大内氏掟書』大意)

(注1) さかい銭:私鑄銭の一種。(注2) うちひらめ:私鑄銭の一種。

- a 使用禁止の対象とされた銭の種類が一致していることから、大内氏は室町幕府の規制に従っていたことが分かる。
- b 使用禁止の対象とされた銭の種類が一致していないことから、大内氏は室町幕府の規制に従ってはいなかったことが分かる。
- c 永楽通宝は京都と山口とともに好んで受け取ってもらえ、市中での需要が高かったことが分かる。
- d 永楽通宝は京都と山口とともに好んで受け取ってもらえず、市中での需要が低かったことが分かる。

① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d

ない」とあり、こういう命令が出ているということは、永楽銭が取引に使用されておらず、また、選別・排除の対象であったということの判断を求めた訳なのだが、この、いわば史料の「裏」を読ませて判断させるという作業は、受験生にはかなり難しい要求だったようである。永楽通宝という精銭イメージがある用語だけに、それが先入観となって判断をじゃましたと思われるが、それにしても10人中9人が間違えるという結果は、出題側もさすがに想定外であったと思う。今後、この手の読解が要求されるかは不明であるが、史料読解演習の指導の際に少し留意が必要かもしれない。

例題2を取りあげた理由は3点ある。第一は、昨年度も本誌で、今後も傾向が続くと指摘した「歴史知識も必要な史料読解問題」である点、第二は、2番目に正答率

■例題2 2023年度 共通テスト本試：第6問 問2

問2 下線部⑤に関連して、その時の修学旅行生の上海での体験記を示した次の史料1の内容に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

27

史料1

省 略

(長商創立75周年記念誌編集委員会編『長商卒業生の生活と意見』)

(注1) 支那：当時用いられた中国の呼称。

X 修学旅行生が「國際的繁榮の都市」と称した上海は、安政の五か国条約の締結よりも前に開港していた。

Y 修学旅行生は、日清戦争の勝利で日本が得た利権の一端を目撃したり、清国の敗北に対する上海市民の反応を体験したりした。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

■例題3 2023年度 共通テスト本試：第4問 問2

問2 下線部③に関連して、商人や職人の仲間・組合やそれに関わる政策に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

- Ⅰ 幕府は、輸入生糸を糸割符仲間一括して購入させる制度を始めた。
Ⅱ 江戸では、問屋仲間の連合体である十組問屋が結成された。
Ⅲ 幕府は、商人や職人の仲間を株仲間として広く公認したほか、銅座や真鍮座、人参座を設けた。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

が低かった（約41%）設問である点、第三は、総じて低い正答率となる設問・解答形式であった点である。第一の点であるが、Xは上海が安政の五か国条約の締結前に開港していたかどうかを知らないと判断できない。日本史Bの教科書にも注や地図情報としてはアヘン戦争での開港場であることが示されているが、世界史寄りの、あるいは新課程の「歴史総合」でも扱われそうな事項といえよう。第三の点は、これは旧センター試験の時代からのことであるが、受験生は「① X正 Y正」を選ぶことを躊躇^{ちゆうちょ}するようで、2文正誤判定の形式で、①が正解の場合は正答率が下がるという傾向に該当する問題であった。誤答は③に集中しており（約52%）、これは先述のXの判定を間違えたことを示している。やはり、上海開港の時期判断は難度が高かったということになる。

(2) できごとの因果関係や歴史的意義を問う

例題3は年代配列問題である。この形式は総じて多くの受験生が苦手とする形式といえる。今年度の共通テスト本試では5問（昨年は6問）出題されている。この形式の克服は、高得点を狙ううえで不可欠といえよう。本問を取りあげた理由は2点である。まずは、年代配列問

題の中で最も正答率が低い（約47%）という点、次に共通テストになってからの特徴といえる歴史用語を極力使わずに作問しているという点である。Ⅰ～Ⅲいずれも時期を明確に示す歴史用語が少なく、抽象度が高い分、難度が上がっている。②・③の誤答が多く、十組問屋の結成時期の時期判定が難しかったことを示している。今後こうした歴史用語をできるだけ使わずに時期や因果関係などを考察・判断させようとするタイプの年代配列問題が続くと思われるので、指導の際に注意が必要である。なお、第3問 問5は模式図を利用し、中世経済の流れを問う、新傾向の設問であった。

4

対策と展望

◆資料問題の演習量の確保

今後もさまざまな資料（史料・図版・地図・統計表・グラフ）を利用した出題が予想される。対策としては、とにかく「慣れる」ことが重要である。『図説日本史通覧』の「巻頭特集」はさまざまな資料の読解の方法などをていねいに解説しており、一通り読んでおきたい。

◆思考力・判断力養成の前提として「知識」を強化する必要

共通テスト模試などのデータからも知識型の問題の正答率が低い傾向があることがわかっている。本試でも知識型の問題は減少しているとはいえ出題されており、何より思考力・判断力養成の前提としても知識を身につける必要性がある。形式・内容面でも旧センター試験と同じような設問も出題されているので、過去問なども大いに利用して、知識面の強化をはかりたい。

◆『歴史総合、日本史探究』について

2022年秋に公表された試作問題では、歴史総合が大問1・配点25点、日本史探究が大問5・配点75点であった。本試がこの通りになるかは不明であるが、試作問題をみる限りは、共通テスト日本史A・Bなどと同様、高校生の主体的な学びをふまえた設定を受けて、図版・グラフ・統計表・文献など諸資料を多用した問題が多く出題されそうである。「歴史総合」については、例えば『明解 歴史総合』の2部の導入『近代化』について考察していこう！』が掲げる「6つのキーワード」などが参考になりそうである（試作問題もこの内、「交通と貿易」と「移民」を取りあげていた）。また、教科書のそこかしこに掲載されている問いに注目しつつ、当面は日本史Aおよび世界史Aの近現代史部分の問題演習などにより教科書の理解を補強し、実戦力を養うことが有用と思われる。

2023年度 国公立大学入試・私立大学入試の分析

日本史

学校法人 河合塾 日本史講師 平野 岳美

1 国公立大学入試の分析

一般に国公立大学の入試で地歴を課している大学は少なく、たとえ課していても文学部を中心に一部の学部・学科のみに課している場合が多い。したがって受験生数が少なく、採点の負担が少ないということもあって、論述問題を出題するところがほとんどである。自分で文章を書いて説明させることで、思考力・判断力・表現力を測ることができるからであろう。

とはいえ、出題形式はさまざまで、大きくは、論述問題が中心の大学と単答問題と論述問題の併用型の大学に分かれる。前者では東京大学・一橋大学・筑波大学・名古屋大学・大阪大学などが挙げられ、後者では北海道大学・京都大学・九州大学などが挙げられる。

ただ、後者の大学で問われる歴史用語は、難関私大に比べて基本的な用語が多い。難関大学だからといってやたら細かい用語を覚える必要はないだろう。しかし、一方で、選択問題は少なく、正確に漢字で書ける知識が要求されている。また、正誤問題も少ないのが特徴的で、これらは共通テストを受験していることが前提であることの影響であろう。

また、史料や表、グラフを読み取らせて解答させる形式の問題も多い。論述問題でもこうした形式を使って、教科書的知識以上の思考力を要求する問題も少なくない（東京大学・名古屋大学など）。

次に2023年度の国公立大学入試における出題テーマの特徴を論述問題を中心にみていきたい。

(1) 原始・古代史のテーマ

今年度の国公立大学入試では、原始時代からの出題はほとんどなかった。わずかに愛知教育大学で、邪馬台国をテーマにした出題がなされた程度であった。原始時代は問えるテーマが限定されていることもあって、例年出題例は少ない。昨年度は多かったが、今年度は例年に戻ったようである。今年度目についたのは、やはり例年出題

例の多い土地制度に関する問題である。今年は、8世紀を中心とした出題が多く、千葉大学第1問では、改新詔、三世一身法、計帳、墾田永年私財法の史料を提示し、班田収授法の内容、計帳から読み取れる内容、7世紀から8世紀の土地制度の変遷をそれぞれ問うている。また、新潟大学第1問では、8世紀の土地政策と民衆の関係について問うている。名古屋大学第1問では、**例題1**のように古代における稲の収取に関する問題文に、8世紀から9世紀にかけての租の蓄積量を示す表、墾田永年私財法と『令集解』田令田長条引用の「民部例」の史料を示し、9世紀に租の蓄積は維持できていたかどうかとその理由を説明させる出題がなされている。

■例題1 2023年度 名古屋大学：第1問 問4

問4 (略) 班田収授法が機能しなくなりつつある9世紀において、租の蓄積は維持できていたのだろうか、それともできなかったのだろうか。表1の、特に「年平均の蓄積量」のデータを参照して述べよ。また、そのような蓄積状況となった背景を、史料3、史料4を参考にして推定せよ。(解答欄3行)(表1・史料3・4省略)

この問題では、表1の読み取りによって8世紀と9世紀を比較して租の蓄積量が維持されていることを読み取り、史料3の墾田永年私財法から開墾田が増加したと推定できること、そして、史料4の「民部例」から墾田が輸租田と規定されていることを読み取れば解答にいたれる。比較的簡単な問題だが、教科書には国衙の租の蓄積量が維持されていることなど書いていない。9世紀＝律令制崩壊＝政府財政難という一般的な理解をしている受験生にとっては動揺する問題であったかもしれない。先述した「教科書的知識以上の思考力を要求する問題」の典型例である。なお、古代から中世の土地制度史は『図説日本史通覧』(以下、『通覧』) p.95にまとめられている。また、p.326-329では、経済、社会とのかかわりのなかで土地制度の変遷が整理されている。ぜひ有効に活用したい。

(2) 中世史のテーマ

今年度は中世史からの論述問題の出題はやや少なめであった。その中では、文化史からの出題が多く、**京都大学**第4問(1)では院政期から鎌倉時代の宗教・文化の受容層の広がり、**信州大学A**(4)では鎌倉仏教の各宗に共通する特徴、**九州大学**第2問 問6では蘭溪道隆の足跡と鎌倉に定住した理由が出題された。**千葉大学**第2問 問5では**例題2**のように室町時代に流行した文化の特徴、**京都府立大学**第3問(A)では、室町期から戦国期の文化の地方普及が出題されている。純粋な文化史の問題もあるが、ほとんどが当該期の社会経済や政治・外交などと関連づけて論じる必要がある問題である。文化史学習はどうしても作者や作品名を覚えることに労力がさかれがちだが、論述対策では他分野と関連づけて特徴を理解しておくことが重要であろう。

■例題2 2023年度 千葉大学：第2問 問5

問5 下線部②「茶寄合」、下線部③「連歌会」と並んで、室町時代に流行した代表的な芸能の名称を、具体的にひとつ答えなさい。その上で、室町時代に流行した文化の特徴を、背景や担い手を踏まえ150字以内で説明なさい。

この問題は、社会経済史との関連で、「集団で楽しむ文化」という室町文化の特徴の理解を問うものである。

そのほか、**筑波大学**第2問では、鎌倉幕府御家人の所領と相続形態の推移が、**東京都立大学**第2問で執権政治から得宗専制への変化の過程が、**東京大学**第2問では武士の家督継承決定のあり方の変化と応仁・文明の乱との関係が出題されている。また、**大阪大学**第2問では室町幕府の収入源とその特徴が問われた。これらの問題も社会経済史と政治史との関連を理解しておく必要がある、国公立大学の論述問題では、一つのテーマの知識を問うだけでなく、他分野との因果関係などの関連を問う問題が多いのが特徴である。

(3) 近世史のテーマ

近世史では今年度は外交関連史からの出題がめだった。**東京学芸大学**第3問は近世外交がテーマの大問であり、問10で近世アイヌ社会を出題している。**新潟大学**第3問も外交史がテーマであり、問8で琉球使節の日本国内の人々に与えた効果について史料読み取りの形で問うた。そのほか、**北海道大学**第3問 問4は1807年から1821年の幕府の対蝦夷地政策を、**大阪大学**第3問は糸割符制度を、**京都府立大学**第2問 問17は対馬・薩摩・松前の貿易の内容をそれぞれ問うている。

文化史からの出題もいくつかみられた。**筑波大学**第3問は**例題3**のように幕府の儒学受容の推移を、**東京大学**第3問は寄席の急増した理由と町奉行が寄席を擁護した理由を、**東京都立大学**第3問は新井白石と会沢安の思想・主張を、**京都府立大学**第3問(B)では18世紀後期から19世紀中期までの洋学の展開と社会への影響をそれぞれ扱っている。

■例題3 2023年度 筑波大学 前期日程：第3問

第3問 江戸幕府における儒学受容の推移について、次の(ア)～(エ)の語句を用いて論述せよ。(略)

- (ア) 寛政異学の禁 (イ) 湯島聖堂
(ウ) 文治主義 (エ) 荻生徂徠

この問題でも幕府政治の展開と関連づけて論じる必要があることは明らかで、やはり、文化史学習の指針を示してくれる問題である。

(4) 近現代史のテーマ

近現代史は出題量も多く、テーマも多岐にわたるが、今年も昨年同様「民衆・民衆運動」「戦争・ファシズム」のテーマがやや多かったように感じた。**北海道大学**第4問 問7は米騒動を、**千葉大学**第3問は自由民権運動を、**筑波大学**第4問は日比谷焼き打ち事件を、**東京学芸大学**第4問は軍部の台頭を、**信州大学B**(7)は第一次世界大戦後の社会運動とその背景を、**長崎大学**第4問 問1は漸次立憲政体樹立の詔の内容と背景をそれぞれ扱っている。また、**一橋大学**第2問と**大阪大学**第4問でそれぞれ新聞をテーマに出題された。例年の繰り返しになるが、こうした問題に対応するためには、政治・経済・外交を分離することなく、常に因果関係を意識して連動させながら学習していく必要がある。

戦後史についても徐々に出題が増えてきているように感じる。1970年代までの学習は必須であろう。今年度でも**東京大学**が第4問すべて戦後史だったのをはじめ、**一橋大学**第3問 問3・5、**新潟大学**第4問 問3・4、**名古屋大学**第4問 問5・6、**愛知教育大学**第2問、**九州大学**第4問 問10などかなりの出題がみられる。特に**名古屋大学**第4問 問6はバブル経済についての問題であり、国公立大学においても、いよいよ1980年代から90年代まで視野に入ってきた観がある。

(5) 史資料を使った問題への対策

先述したが、国公立大学の入試問題では、史資料を使った出題が多く、文字資料を筆頭に、図版資料、表、グラフなどの読み取りを前提に論述させる。この対策には、

日ごろから史資料にふれて、読み取りの練習をしておく必要がある。『通覧』の巻頭9～20はこうした資料の読み解き演習であり、また、各時代各所にさまざまな資料が説明とともに掲載されており、これらを活用した学習が有効であろう。

2 私立大学入試の分析

私立大学で地歴を受験科目に課す大学は膨大であり、さまざまな時代・分野から出題される。したがって、原始から1970年代までの基本的学習が対策のベースである。そのことを前提に、最近の傾向として注目しておきたい点をいくつか指摘しておく。

(1) 1980年代以降の現代史

1970年代までの学習が基本である旨前述したが、ここ数年1980年代（以下、80年代）以降の現代史からの出題が急増している。そろそろ少なくとも80年代までを基本的学習の範囲に入れなければならなくなりそうである。特に関東の私大でその傾向は顕著で、55年体制の崩壊までは押さえておく必要があるかもしれない。ただ、福田赳夫内閣まではすべての総理大臣の名前が出題されるが、それ以降はそうではなく、まだピンポイントで問われるだけなので、そこを押さえておけばなんとかなるだろう。政治史では中曽根康弘内閣が出題頻度が高く、55年体制の崩壊を扱った問題が多い。経済史では貿易摩擦と農産物の輸入自由化、プラザ合意からバブル経済、平成不況など、外交史では湾岸戦争とPKO協力法以降の国際貢献、日米安保共同宣言と新ガイドラインおよびその関連法などが頻出テーマである。そのほか京都議定書などの環境問題、東海村JCO臨界事故などの原発関係の出題頻度が高い。今年度は慶應義塾大学文学部第3問で1990年代を扱った問題が出題された。全部で空欄8個の問題だが、すべて記述であり、この間の首相の名前も4人聞いており、かなりの難問であった。80年代以降単独の問題はまだ少ないが、問題文の後半で80年代に入り、数問の設問をおいている問題は少なくない。今年度でも慶應義塾大学商学部第3問(例題4)をはじめ、青山学院大学、中央大学、明治大学、学習院大学、立教大学、早稲田大学などで出題されている。一方、関西でも関西学院大学2月4日実施分第4問では高度経済成長の終焉から橋本龍太郎内閣成立までを世界経済との関係を中心とした問題文に政治・外交を絡めた設問が出題された。それ以外でも小問レベルで同志社大学や関西大学などでも出題されている。

■例題4 2023年度 慶應義塾大学：商学部 第3問

（前略）1980年代に入ると日本は安定成長を続け、対米貿易黒字が激増したため、貿易赤字にならむアメリカからは特に強い非難があった。1981年に発足したアメリカの(99) (100) 政権の時期には、自動車の(d)と農産物の輸入自由化を強く求めてきた。1985年にニューヨークで開かれた(101) (102) では、ドル高の是正がはかられた。この後、急速な円高となり、日本は不況にみまわれた。不況対策の一環として、公共事業の拡大と所得税減税による内需拡大、低金利政策が実施されると、地価や株価の暴騰をともなう好況となった。また、(103) (104) 内閣が発足させた第2次臨時行政調査会の方針を受け、後継の内閣は行財政改革を推進し、1987年に(105) (106) の民営化を実現した。なお、アメリカの貿易赤字は減少せず、日本経済の制度や慣行が輸入を妨げているとして、(107) (108) において対日批判を強めた。

日本経済は1991年に景気の後退が始まった。クウェートに侵攻したイラクに対し、1991年になってアメリカ軍を主力とする多国籍軍が武力制裁を加えるという(e)が起こった。日本は多国籍軍への参加を求められたが、資金援助にとどまった。1992年、宮沢内閣は、(109) (110) 法を成立させ、自衛隊がカンボジアに派遣された。日米同盟の強化を進めた(111) (112) 内閣は1996年に日米安保体制について共同宣言を発表し、翌年、新ガイドラインが策定された。そして、周辺事態安全確保法などの新ガイドライン関連法が(113) (114) 内閣のときに成立した。

現在では、地球環境問題も大きな課題となっている。1997年、温室効果ガスの排出削減の目標を盛り込んだ(115) (116) が採択されたが、のちにアメリカは不支持を表明した。2015年には開発途上国も含めて温室効果ガス排出削減を努力目標とする(117) (118) が採択された。

筆者注：□ は語群選択、() は記述。

(2) 蝦夷地・北海道史 琉球・沖縄史

蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史は例年出題は多い。今年度も早稲田大学文化構想学部第1問で琉球・沖縄史を全面的に扱った問題が出題された。ちなみに早稲田大学は、昨年は法学部で、一昨年は教育学部で琉球・沖縄史を出題している。そのほか、中央大学商学部2月11日実施分第3問は近現代のアイヌ史を、南山大学人文学部2月10日実施分B(一)は蝦夷地・アイヌの歴史(例題5)を、関西学院大学2月7日実施分第2問は中世のアイヌと琉球を(設問レベルでは明治まで)、駒澤大学2月6日実施分第4問は近世の蝦夷地について出題している。

そのほか中世の外交や鎖国下の外交、列強の接近や開国

の過程などで蝦夷地や琉球を部分的に扱った問題も多い。

こうした蝦夷地・北海道史と琉球・沖縄史の学習には『通覧』が有用である。中世・近世・近代・現代にそれぞれ【特集】が組まれており（現代は沖縄のみ）、詳しく、そしてビジュアルにまとめられているので整理しやすく、理解しやすい。

■例題5 2023年度 南山大学：2月10日 B(一)

津軽海峡を越えた北海道には、本州に稲作が伝来した後も、縄文時代以来の狩猟採集経済を基盤とした生活様式をもつ **A** 文化が展開していたが、北上してきた古墳時代の文化と接触したことで、 **B** 文化へと発展した。この文化が北方の諸民族と接触することで、12～13世紀頃にアイヌ民族・アイヌ文化が成立したと考えられている。

アイヌの人々は、13世紀には津軽の港町である **C** を拠点とした安藤（安東）氏と交易をおこなっていた。しかし、次第に和人の圧迫が強まり、それに不満を抱いた大酋長 **D** が1457年に蜂起した。この蜂起で、 **D** は、和人居住域のほとんどをいったん攻め落としたものの、上之国の領主であった蠣崎氏によって制圧された。

蠣崎氏は、近世になると **E** 氏と改称し、徳川家康から大名として認められた。 **E** 藩は、石高を持たない藩であり、他藩の俸禄制度とは異なる。 **F** 知行制を藩の基盤としていた。この制度の下では、藩や和人によってアイヌ民族に対する苛酷な収奪がおこなわれた。1669年には、アイヌ民族による大規模な蜂起が起きたが、制圧された。

明治時代に入り、新政府は、アイヌ民族の救済と保護を目的として、1899年に **G** 法を制定したが、アイヌ民族の文化の破壊を止めることはできなかった。この法律は、1997年にアイヌ文化振興法が制定されるまで存続した。

【設問】

- (1)～(5)…省略、空欄A～E・Gは空欄補充問題
(6) 下線部aについて、これは家臣に対して何を知行として与える制度であったか、空欄 **F** に入る語を用いて、20字程度（句読点も1字に数える）で説明しなさい。

(3) 図版資料(彫刻・絵画・建築など)を使った問題

出題形式で注目されるのは文字資料ではない図版を使った問題である。例えば早稲田大学文学部第6問は毎年のように図版問題を出題している。一般に、図版を示して、作者名や作品名を答えさせる、逆に作品名や作者名を出して該当する図版を選ばせるという単純な問題も多く、有名な図版は一度は見て確認させておく必要がある。『通覧』には各時代各所にさまざまな図版が掲載

されており、これを利用して日常的にこうした図版資料に慣れさせておくといいたいだろう。

また、共通テストでもみられるような図版を示して読み取りをさせる問題もある。例えば今年度では、早稲田大学教育学部第2問で、武士の館を描いた図版を2枚示して、読み取りをさせる問題が出題されている(例題6)。

■例題6 2023年度 早稲田大学：教育学部 第2問

(図版省略)

問5 下線部gについて、鎌倉時代の武士の館の特徴として写真1・2から読み取れることはどれか。すべて選べ。

- ア 屋根に瓦が葺かれた複数の建物が立ち並ぶ豪壮なたたずまいであった。
イ 門には扉がなく、塀すらない場合もあり、防御性には多様な実態があった。
ウ 屋内の部屋には畳が敷かれ、障壁画が描かれた障子に仕切られた部屋もあった。
エ 主屋には^{ひし}廂も縁側もなく、きわめて質素な造りであった。
オ 簡単には飛び越えられない大きな堀や、人の背丈を超える堅固な土塁で囲われていた。

こうした図版の読み取り問題は日常的に読み取りの練習をしておく必要がある。国公立大学分析のところでも述べたが、『通覧』の巻頭の資料の読み解き演習が格好の練習の場を提供してくれている。

(4) 「歴史総合」「日本史探究」の影響

昨年11月に共通テストの『歴史総合、日本史探究』の試作問題が公表された。時期が遅かったこともあるだろうが、今年度の入試問題を見る限り、その影響はまだそれほどみられない。「歴史総合」の世界史部分を出題すれば現状では範囲逸脱になってしまうし、「日本史探究」は教科書がまだ発行されていない段階であったから当然反映されることはなかったであろう。ただ、共通テスト型の問題は増加しつつあり、先述した早稲田大学教育学部第2問は共通テストによくみられる会話形式の問題文に史料や図版資料を利用した読み取り問題で構成されている。会話形式はその文脈の中で「探究」の姿勢が織り込まれるものであり、今後、こうした形式の出題が増加する可能性がある。また、今年度は地図問題がかなりみられた。日本国内以外の場所を問う問題も散見されている。例えば青山学院大学文学部2月14日実施分第3問 問7は伊藤博文が暗殺された場所を問うた。こうした問題も今後増加していく可能性は十分にあるだろう。『通覧』にはこうした地図資料もふんだんに掲載されているため、有効に活用されたい。

2024年度資料集のご案内

新詳地理資料

COMPLETE 2024

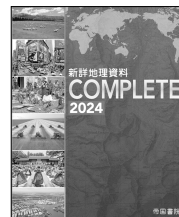
地理の基礎・基本から大学入試までこの1冊でカバー！

AB判／346ページ

別冊『地形図・白地図ワーク』32ページ(教師用解答付)

対応科目 「地理総合」「地理探究」「地理A」「地理B」

①書籍版 定価:1,030円(税込) ②クラウド配信版 定価:990円(税込) ③セット版(書籍+クラウド配信) 定価:1,500円(税込)



明解 歴史総合図説

シンフォニア 三訂版

日本と世界のかかわりが見える！

読み解きで楽しく学べる資料集

対応科目 「歴史総合」 AB判／214ページ『別冊史料』16ページ付

①書籍版 定価:850円(税込) ②クラウド配信版 定価:820円(税込) ③セット版(書籍+クラウド配信) 定価:1,320円(税込)



ライブ! 公共 2024

迫力の写真と丁寧な解説で学習が深まる！

池上彰監修の思考力を養える資料集

対応科目 「公共」「現代社会」 AB判／390ページ

①書籍版 定価:990円(税込) ②クラウド配信版 定価:980円(税込) ③セット版(書籍+クラウド配信) 定価:1,480円(税込)



最新世界史図説

タペストリー 二十二訂版

大学入試対策に最適！

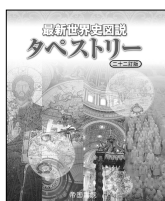
世界史資料集の決定版！

対応科目 「世界史探究」「世界史A」「世界史B」

AB判／398ページ

『別冊史料・白地図解答』36ページ・『別冊白地図作業帳』36ページ付

定価:990円(税込)



図説 日本史通覧

“資料を読み解く力”が身につく！

大学入試対策に最適な資料集

対応科目 「日本史探究」「日本史A」「日本史B」

AB判／418ページ 別冊『日本史重要史料207選・[考察解答][解説]』

64ページ付

定価:990円(税込)



図説地理資料

世界の諸地域NOW2024

世界と日本のNOWがわかる 唯一の地誌重視の資料集

対応科目 「地理総合」「地理探究」「地理A」「地理B」

AB判／274ページ 別冊『地形図・白地図ワーク』32ページ(教師用解答付)

定価:1,000円(税込)



明解世界史図説

エスカリエ 十五訂版

面白い! 楽しい!

わかりやすい! 世界史図説

対応科目 「世界史探究」「世界史A」「世界史B」

AB判／266ページ『別冊白地図作業帳』36ページ付

定価:887円(税込)



※編集中のため、内容が一部変更となる場合があります。

高等学校

地歴・公民科資料 ChiReKo 2023年度特別号

サクラサク入試分析 2023-秋- 地理 世界史 日本史

2023年9月29日発行

東京都千代田区神田神保町 3-29 (〒101-0051)

株式会社 帝国書院 発行人 佐藤 清

電話 03-3262-4795 (代)

<https://www.teikokushoin.co.jp/>

©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2023